

スポーツ柔整科

スポーツ柔整科 2020年度・2021年度・2022年度入学(JT20S・JT21S・JT22S)

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1年次		2年次		3年次		
							前	後	前	後	前	後	
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	必修	国語表現	演習	2	32	32						
		必修	パソコン	演習	2	32		32					
		必修	生物学Ⅰ	講義	2	32	32						
		必修	生物学Ⅱ	講義	2	32		32					
		必修	栄養学Ⅰ	講義	2	32	32						
		必修	栄養学Ⅱ	講義	2	32		32					
		必修	体力学	講義	2	32	32						
専門基礎	人体の構造と機能	必修	解剖学Ⅰ（運動器系）	講義	4	64	32	32					
		必修	解剖学Ⅱ	講義	4	64			32	32			
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	64	32	32					
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	64			32	32			
		必修	高齢者・競技者の生理学的特徴・変化	講義	2	32				32			
		必修	運動学	講義	2	64			32	32			
	疾病と傷害	必修	病理学	講義	2	64			32	32			
		必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	64			32	32			
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	32					32		
		必修	外科学概論	講義	2	32			32				
		必修	整形外科学	講義	2	32			32				
		必修	リハビリテーション医学	講義	2	64			32	32			
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	32		32					
	保健医療福祉と柔道整復の理 念	必修	職業倫理	講義	1	16	16						
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	64	32	32					
		必修	関係法規	講義	1	32	32						
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	32		32					
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	32			32				
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	32				32			
		必修	柔道Ⅳ	実技	1	32					32		
	社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	16	16						
専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	1	32		32					
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	64	32	32					
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	64			32	32			
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	1	32				32			
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	64					32	32	
		必修	基礎柔道整復学Ⅵ	講義	2	64					32	32	
		必修	基礎柔道整復学Ⅶ	講義	2	64					32	32	
		必修	基礎柔道整復学Ⅷ（外傷の保存療法）	講義	1	16			16				
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	64	32	32					
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	2	64	32	32					
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	64			32	32			
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ	講義	2	64			32	32			
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	64					32	32	
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ	講義	2	64					32	32	
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ	講義	2	64					32	32	
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ（柔道整復術の適応）	講義	2	32						32	
		必修	臨床柔道整復学Ⅸ（物理療法の取り扱い）	講義	1	16			16				
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	64	32	32					
		必修	柔道整復実技Ⅱ	実技	2	64			32	32			
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	64					32	32	
		必修	柔道整復実技Ⅳ	実技	2	64					32	32	
		必修	柔道整復実技Ⅴ	実技	2	64					32	32	
		必修	柔道整復実技Ⅵ	実技	2	64					32	32	
		必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	2	64					32	32	
		必修	柔道整復実技Ⅷ	実技	2	64					32	32	
		必修	柔道整復実技Ⅸ（高齢者・競技者の外傷予防）	実技	2	32						32	
	臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45					
		必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45				
		必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45			
		必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45						45	
					104	2772	877		954		941		

シラバス（授業計画書）

科目名（ 国語表現 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

国語常識の演習（漢字の読み・書き取り・エッセイ・評論の読み取り）
自己表現力向上のための作文

2 到達目標

国家試験合格のための自己表現力と言語能力を身につける。

3 授業の方法

90 分の授業内で学習内容を習得する。そのための反復学習
10 分間テストの活用

4 成績評価方法・基準

試験の点数（80％）＋平常点（10％）＋出席点（10％）

5 評価の際の特記事項

評価の方法は学生さんに授業開始時に話をしておく。厳正・公平にやる。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習課題は授業の中で配付し、授業に入る前に 10 分テストを実施する。
基本熟語（常用漢字）・難解語を学習課題として配付する。

7 使用教材，教具

「必携国語」（第一学習社）・ステップ基礎小論文・書き方ノート

8 学生へのメッセージ

「人生にリハーサルはなし」

9 教員氏名（ 出口 彰 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 国語表現 ）

回数	授業内容
1	自己紹介・授業ガイダンス・自己紹介文・漢字・語彙力（1）頻出漢字書き取り読み P2～P3 部首・予習小テスト課題 P4
2	10 分間テスト P4・頻出漢字 P6P7P9 小作文 P62①（話し言葉と書き言葉） 予習小テスト課題 P10
3	10 分間テスト P10・頻出漢字 P11～P13、小作文 P63（主語と述語） 予習小テスト課題 P14
4	10 分間テスト基礎 P14・頻出漢字 P15～P17 小作文 P64③（副詞の呼応） 予習小テスト課題 P18
5	10 分間テスト P18・頻出漢字 P19～P21・小作文 P65 悪文訂正・予習小テスト課題 P22
6	10 分間テスト P22・頻出漢字 P23～P25、P66（課題作文①）・予習作用テスト課題 P26
7	10 分間テスト P22・頻出漢字 P27～P29、P26（課題作文②）・小作文課題 P30
8	10 分間テスト P30・難解語 P31～P33、P76（課題作文③）・予習小テスト課題 P34
9	10 分間テスト P34・同訓異字 P35～P37・一般常識 P98（現代用語） 予習小テスト課題 P38
10	10 分間テスト P38・同音異義語 P39～P41・現代用語 P101 演習・予習小テスト課題 P42
11	10 分間テスト P42・対義語 P43、P106（正しい敬語）・予習小テスト課題 P44
12	10 分間テスト P44・四字熟語 P45～P47、P108（正しい敬語）・予習小テスト課題 P48
13	10 分間テスト P48・慣用句 P49～P51・予習小テスト課題 P52
14	10 分間テスト P52・ことわざ P53～P55 復習テスト前課題
15	10 分間テスト・故事成句 P57～P59、テスト前演習
16	試験返却、試験問題解説

シラバス（授業計画書）

科目名（パソコン）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

授業の前半は、プレゼンテーションなどで使用される「PowerPoint」を使用し、課題を設定した資料作成（社会人として習得しておくべき、パワーポイント）の制作スキルを学びます。また、後半では、Wordでの表やグラフ作成の基礎と、Excelの連携についても学習します。

2 到達目標

アプリケーションの機能概要（操作）の理解と画面操作のみではなく、ショートカットキーの同時使用で、作業の効率化が出来ます。また、プレゼンテーションや報告書の作成スキルを習得します。

3 授業の方法

講師用パソコンをプロジェクターに写し、操作方法を同時に行いながら修得します。又、各章毎に練習問題を実施し、回答を行いながら修得します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 → 70%

授業態度 → 30%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、授業や課題への取り組みや出欠を含めて総合的に判断いたします。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って講義を行います。また、授業の空き時間で「PCが空いている時など、事前に教科書の予習・復習をしておくこと。

7 使用教材、教具

「よくわかる Microsoft Word2019&Microsoft Excel2019&Microsoft PowerPoint2019」
(FOM 出版)

8 学生へのメッセージ

ビジネス業界で必ず必要となる「文書作成や表計算」を Microsoft 社の「Office2019」を使用して基礎から学習します。今回は Word,Excel,PowerPoint を基礎から学習しますので、日常生活でも活用してください。

9 教員氏名 (家富浩人)

所 属 (ころ医療福祉専門学校)

10 特記事項

常勤教員による授業

科目名 (パソコン)

回数	授業内容
1	PC とアプリケーション (Office2019) の全体説明
2	PowerPoint 基礎知識
3	PowerPoint プレゼンテーション作成
4	PowerPoint スライドショーの実行
5	Word 基礎知識
6	Word 文書作成
7	Word グラフィック機能
8	Word ワードでの表作成
9	Excel 基礎知識
10	Excel データ入力
11	Excel エクセルでの表作成
12	Excel グラフの作成
13	Excel データ分析
14	Word・Excel アプリケーション間でのデータ共有
15	練習問題 (Word,Excel,PowerPoint)
16	答案返却及び解説 授業の進捗度・理解度等により順序が変更する場合もある。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生物学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 1年

1 授業の内容

医療の基礎となる解剖学や生理学や病理学を理解する上で必要な生物の細胞において、細胞の構造、細胞の組織、DNA、遺伝、免疫についての基礎知識を学んでいく。

2 到達目標

生物学で用いる基礎的な用語を理解し、解剖学・生理学・臨床医学・病理学などの学問を理解するための橋渡しを目指す。

3 授業の方法

毎回プリントを配布し、それに解説を加えながら空欄を埋めることにより理解を図る。

4 成績評価方法・基準

定期試験を 90%、平常点を 10%として成績を出します。具体的には定期試験の 9 割に平常点を加えます。平均として 60%以上であれば合格とする。

5 評価の際の特記事項

毎時間小テストを行い、それを平常点とします。欠席が多いと当然小テストの点数がなくなり平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間を大切にすること。その日に学んだことはその時間内で理解するように心がけてください。それに加えて、忘れないように復習を行ってください。

7 使用教材，教具

テキストは毎回プリントを配布し「サイエンスビュー 生物総合資料 実教出版」を副教材として使用します。

8 学生へのメッセージ

最初は新しい言葉が沢山出てきてパニックになるかもしれませんが、重要な言葉は何度も出てきます。それらを少しずつ覚えていくことで理解が急速に容易になるはずです。前期は大変でも後期には必ず楽になります。諦めないことが大切です。夢に向かって頑張りましょう。

9 教員氏名（ 松尾 泰博 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 生物学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	自然発生説の否定、生命の誕生、細胞の成分（タンパク質）
2	細胞成分、タンパク質、糖質、脂質（中性脂肪）
3	脂質、核酸、無機塩類、様々な細胞、真核細胞の構造と働き
4	細胞の構造、細胞骨格、
5	細胞膜、細胞接着、細胞外基質
6	浸透圧、受動輸送、選択的透過性
7	能動輸送、膜動輸送
8	呼吸、解糖系、クエン酸回路、好気呼吸と嫌気呼吸の比較
9	脂肪・タンパク質からのエネルギー、呼吸商、細胞分裂中期
10	細胞分裂後期、終期、減数分裂、配偶子の多様性
11	異数性、ヒトの生殖細胞の形成、命の始まり
12	胚葉の分化と器官形成、遺伝（優性の法則、分離の法則）、遺伝子の説明
13	メンデルの実験の検証、複対立遺伝
14	Rh式血液型、性と染色体、伴性遺伝
15	常染色体遺伝、胚葉の分化、国家試験過去問題
16	定期試験解説、国家試験過去問題

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生物学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

医療の基礎となる解剖学や生理学や病理学を理解する上で必要な生物の細胞において、細胞の構造、細胞の組織、DNA、遺伝、免疫についての基礎知識を学んでいく。

2 到達目標

生物学で用いる基礎的な用語を理解し、解剖学・生理学・臨床医学・病理学などの学問を理解するための橋渡しを目指す。

3 授業の方法

毎回プリントを配布し、それに解説を加えながら空欄を埋めることにより理解を図る。

4 成績評価方法・基準

定期試験を 90%、平常点を 10%として成績を出します。具体的には定期試験の 9 割に平常点を加えます。平均として 60%以上であれば合格とする。

5 評価の際の特記事項

毎時間小テストを行い、それを平常点とします。欠席が多いと当然小テストの点数が無くなり平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間を大切にすること。その日に学んだことはその時間内で理解するように心がけてください。それに加えて、忘れないように復習を行ってください。

7 使用教材、教具

テキストは毎回プリントを配布し「サイエンスビュー 生物総合資料 実教出版」を副教材として使用します。

8 学生へのメッセージ

最初は新しい言葉が沢山出てきてパニックになるかもしれませんが、重要な言葉は何度も出てきます。それらを少しずつ覚えていくことで理解が急速に容易になるはずです。前期は大変でも後期には必ず楽になります。諦めないことが大切です。夢に向かって頑張りましょう。

9 教員氏名（ 松尾 泰博 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 生物学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	DNA の構造、染色体と DNA、国家試験過去問題
2	半保存的複製、DNA の複製、テロメア、PCR
3	DNA の修復、RNA の種類と働き、暗号解読
4	タンパク質の合成、サイレンと突然変異
5	突然変異、形質発現の調節
6	遺伝子変異とがん（一般的な知識、ウイルスによるがん）
7	遺伝子変異（生活習慣、遺伝性）、がんにかかわる遺伝子（がん遺伝子まで）
8	インフルエンザウイルス、遺伝子組み換え、制限酵素、プラスミドバイオテクノロジー
9	層物への遺伝子導入、遺伝子治療、クローンの定義
10	クローン動物、再生医療、ヒトゲノム計画（前半）
11	ヒトゲノム計画、生体防御システム、非特異的防御（前半）
12	特異的生体防御、炎症反応、特異的防御（抗体の構造）
13	抗体の種類、B 細胞、T 細胞、液性免疫（一部）
14	液性免疫、細胞性免疫
15	アレルギー、自己免疫疾患、ワクチン
16	定期試験解説、国家試験過去問題

シラバス（授業計画書）

科目名（ 栄養学Ⅰ ）

学科名 スポーツ系整科 科

学年 1 年

1 授業の内容

栄養素の種類と機能について学び、食品・栄養と健康のかかわりについて理解する。

2 到達目標

栄養学の知識を取り入れた生活をしていくことで、自分あるいは周りの人々の健康の維持・増進を図る。

3 授業の方法

教科書・資料を用いた講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 70 %、出席 15 %、授業態度 15 %

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習はもちろんです。自身の食生活において実践することでより定着させてください。

7 使用教材，教具

新・栄養学総論 第2版 講談社

8 学生へのメッセージ

「食べる」ことは「生きる」ことです。食べることがいかに重要かということを再認識する機会にしたいと思います。

9 教員氏名（ 橋本 孝子 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (栄養学 I)

回数	授業内容
1	栄養の概念 (1) 栄養と健康、疾患
2	栄養の概念 (2) 摂取した栄養素の体内でのはたらき
3	炭水化物の栄養素 (1) 糖質の種類と構造①
4	炭水化物の栄養素 (2) 糖質の種類と構造②
5	炭水化物の栄養素 (3) 糖質の体内代謝
6	タンパク質 (1) タンパク質の構造と体内代謝
7	タンパク質 (2) アミノ酸の構造と種類
8	脂質 (1) 脂質とは
9	脂質 (2) 脂肪酸の構造と種類①
10	脂質 (3) 脂肪酸の構造と種類②
11	ビタミンの栄養 (1) ビタミンの分類と栄養学的特徴①
12	ビタミンの栄養 (2) ビタミンの分類と栄養学的特徴②
13	ミネラルの栄養 (1) ミネラルの分類と栄養学的特徴①
14	ミネラルの栄養 (2) ミネラルの分類と栄養学的特徴②
15	水の働き
16	定期試験の答案返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 栄養学Ⅱ ）

学科名 スポーツ系整科 科

学年 1 年

1 授業の内容

栄養素が体内でどのように消化・吸収・代謝されているか、また食品をどのように選択すればよいかを学ぶ。

2 到達目標

栄養学の知識を取り入れた生活をしていくことで、自分あるいは周りの人々の健康の維持・増進を図る。

3 授業の方法

教科書・資料を用いた講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 70%、出席 15%、授業態度 15%

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習はもちろんです。自身の食生活において実践することでより定着させてください。

7 使用教材，教具

新・栄養学総論 第2版 講談社

8 学生へのメッセージ

「食べる」ことは「生きる」ことです。食べることがいかに重要かということを再認識する機会にしてほしいと思います。

9 教員氏名（ 橋本 孝子 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名 (栄養学Ⅱ)

回数	授業内容
1	食品の摂取 生理的、心理的欲求
2	食品の摂取 栄養管理
3	消化と吸収 消化吸収が行われる器官とはたらき①
4	消化と吸収 消化吸収が行われる器官と働き②
5	消化と吸収 栄養素と消化①
6	消化と吸収 栄養素と消化②
7	消化と吸収 栄養素の吸収とそのしくみ
8	消化と吸収 栄養素の代謝
9	エネルギー代謝 エネルギー代謝の概念
10	エネルギー代謝 エネルギー摂取量とエネルギー必要量
11	日本人の食事摂取基準 食事摂取基準とは
12	日本人の食事摂取基準 食事摂取基準の指標
13	食品の選択 食品分類法
14	食品の選択 食事バランスガイド
15	まとめ
16	定期試験の答案返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復師の施術に必要な運動器系（骨格、関節、骨格筋）の構造と働き、それを支配する神経について学習する。

2 到達目標

自ら疑問点を見つけて進んで学習することができる態度と、骨格の構造、主な骨格筋の起始・停止・支配神経と作用を説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書，授業プリント，PC プロジェクタを利用した講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

中間試験・定期試験成績で評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間評価を 40%，後期評価を 60%の割合で通年での総合評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って事前に教科書の予習をしておくこと。これにより，授業内容の理解が深まる。また復習で知識の定着がなされているかを確認するため，小テストを実施する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「解剖学」（改定第2版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

解剖学は他の科目の基礎となる最も重要な科目なので予習・復習をしっかり行うこと。また，局所を断片的に勉強するだけでなく，他の部位とのつながりのなかで個々の特徴を理解することが必要である。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 解剖学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	1 人体解剖学概説 E 人体の区分 解剖学用語 細胞、組織、器官および器官系
2	1 人体解剖学概説 B 細胞と組織 上皮組織 支持組織 筋組織
3	1 人体解剖学概説 B 細胞の組織 細胞の構造 細胞小器官
4	1 人体解剖学概説 C 発生 遺伝子と染色体 タンパク質合成 細胞分裂
5	2 運動系 A 骨格系 総論 骨の役割 主要な骨 骨質 骨膜 骨髓 軟骨質
6	2 運動系 A 骨格系 総論 骨の発生と成長 骨の連結 関節の構造
7	2 運動系 A 骨格系 脊椎 椎骨の基本構造 椎間関節 頸椎から尾骨の特徴
8	2 運動系 A 骨格系 脊椎 椎間円板と靭帯 頭関節 胸郭 肋骨 胸骨
9	2 運動系 A 骨格系 上肢骨 肩甲骨 鎖骨 上腕骨 橈骨・尺骨
10	2 運動系 A 骨格系 上肢骨 手根骨 指骨 上肢の関節
11	2 運動系 A 骨格系 下肢骨 寛骨（腸骨 坐骨 恥骨） 大腿骨 脛骨・腓骨
12	2 運動系 A 骨格系 下肢骨 足根骨 指骨 下肢の関節
13	2 運動系 A 骨格系 頭蓋 脳頭蓋と顔面頭蓋 縫合 頭蓋を構成する骨
14	2 運動系 A 骨格系 頭蓋 顔面頭蓋を構成する骨 内頭蓋底
15	2 運動系 A 骨格系 頭蓋 外頭蓋底 泉門 顎関節
16	中間試験答案返却および解説
17	2 運動系 B 筋系 総論 筋の種類 起始・停止と作用
18	2 運動系 B 筋系 上肢帯の筋 上腕の筋 前腕屈筋
19	2 運動系 B 筋系 前腕伸筋 手の筋
20	2 運動系 B 筋系 外寛骨筋 内寛骨筋 大腿伸筋
21	2 運動系 B 筋系 大腿内転筋 大腿屈筋 下腿伸筋 腓骨筋群
22	2 運動系 B 筋系 下腿屈筋 足の筋
23	2 運動系 B 筋系 表情筋と咀嚼筋 頸部の筋
24	2 運動系 B 筋系 浅胸筋と深胸筋 浅背筋 深背筋 腹部の筋 横隔膜
25	6 神経系 神経系の区分 神経組織 終脳（大脳半球） 大脳皮質の機能局在
26	6 神経系 B 脳 大脳髄質 大脳基底核 間脳 中脳 橋
27	6 神経系 B 脳 延髄 小脳 脳室系 髄膜と脳脊髄液
28	6 神経系 C 脊髄 区分 灰白質と白質 ベル・マジャンディーの法則 反射
29	6 神経系 C 脊髄 上行性伝導路 下行性伝導路 脳神経 種類と作用
30	6 神経系 D 末梢神経 脊髄神経 神経叢
31	6 神経系 D 末梢神経 デルマトーム 自律神経 節前線維と節後線維
32	定期試験，答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1 授業の内容

医療人として不可欠な知識である生理学の中でも、解剖生理を基本として循環、呼吸、消化といった生命活動に結びつく重要な機能等を講義とテスト形式で学習する。

2 到達目標

授業を通して得られた生命活動に関わるキーワードについて簡単に説明できるようになる知識、自身の意見等をまとめ他人に伝える力を身に付けさせる。

3 授業の方法

講義のほか問題形式による講義確認とする

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

定期試験による評価をすべてとする

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習、復習をしてくること。

使用教材を何度も読み予習することが特に重要である。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改訂第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

生理学の教科書は最初の頃は読んでも意味がわかりませんが、あきらめないことが大事、授業が進むうちにいろいろな部分のつながりが見えるようになり理解できるようになります。

9 教員氏名（ 永松 敬 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 生理学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	生理学とは（細胞の構造と機能）
2	生理学とは（組織、器官と生体の機能系、生体の構造的性、体液等）
3	筋の生理（骨格筋）
4	筋の生理（心筋、平滑筋）
5	神経の生理（神経系信号の伝達）
6	神経の生理（神経系の構成）
7	神経の生理（内蔵機能の調節）
8	運動の生理（運動の調節、運動神経と運動単位）
9	運動の生理（脊髄による反射とその調節）
10	運動の生理（脳幹による運動調節、高次運動機能）
11	感覚の生理（感覚の一般的な特性）
12	感覚の生理（特殊感覚）
13	感覚の生理（体性感覚）
14	感覚の生理（内蔵感覚、痛覚）
15	前期のまとめ
16	中間試験解説
17	呼吸の生理学（1） 呼吸器の機能的構造
18	呼吸の生理学（2） ガス交換とヘモグロビンの役割
19	呼吸の生理学（3） 呼吸を調節するしくみ（1）
20	循環の生理学（4） 呼吸を調節するしくみ（2）
21	消化と吸収（1） 消化管の運動とその調節
22	消化と吸収（2） 消化液の分泌機序
23	消化と吸収（3） 消化管ホルモン
24	栄養と代謝（1） 代謝、中間代謝
25	栄養と代謝（2） エネルギー代謝
26	体温とその調節（1） 体温の生理的変動
27	体温とその調節（2） 体温調節の仕組み
28	尿の生成と排泄（1） 腎の構造と機能
29	尿の生成と排泄（2） 尿細管における再吸収
30	尿の生成と排泄（3） 排尿
31	後期のまとめ
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復術の適応 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1 年

1. 授業の内容

柔道整復師の適応範囲を理解し、適切な鑑別が実施できるように、
整形外科疾患および内科的疾患を知り、鑑別方法を学ぶことを目的とする。

2. 到達目標

臨床症状の類似点を理解し、正しい判断ができるように各疾患と柔道整復術の
業務範囲内か業務範囲外かを適切に鑑別できるように、理解力を深める。

3. 授業の方法

プリントを配布後、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4. 成績評価方法・基準

定期試験（100％）

5. 評価の際の特記事項

特になし。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時に話したポイントに関してはこまめに復習し、覚えるようにしてください。

7. 使用教材

配布プリント

8. 学生へのメッセージ

施術を行う上で、業務範囲についての知識と自覚がなければなりません。特に、柔道
整復師は健康保険等を利用して受診する患者に対して、適切な対応が求められます。
したがって、それらの基礎的な知識を学ぶ大切な授業なので、不明な点は必ず質問し
て、少しずつ理解できるように努力しましょう。

9. 教員名（ 川上 恭 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

10. 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 柔道整復術の適応 ）

回数	授業内容
1	患者の状況の的確な把握・鑑別
2	問診、触診の検査結果等による受傷状況の把握・鑑別
3	症状により、専門医受診に対する判断
4	整形外科的疾患との鑑別（１）
5	整形外科的疾患との鑑別（２）
6	整形外科的疾患との鑑別（３）
7	整形外科的疾患との鑑別（４）
8	ここまでの復習・まとめ
9	内科的疾患との鑑別（１）
10	内科的疾患との鑑別（２）
11	柔道整復師が行える救急処置
12	多発性外傷患者への救急処置（災害を想定）
13	災害時での医師との連携
14	患者および家族に対する説明、患者の生活習慣と生活環境及び仕事に留意した指導
15	全体のまとめ
16	試験返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 職業倫理 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

医療職である柔道整復師の職業倫理を学び、医療従事者として実践力を備えた人材へと成長を促す。担当教員の実務経験を基に実務に必要な技術・知識の解説も実施する。

2 到達目標

授業を通じて医療職の職業倫理を身につける。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

レポート 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配付している資料に関する復習をしてくること。

7 使用教材，教具

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理

8 学生へのメッセージ

教員の実体験も交えて臨床に役に立つ知識を伝えたいと思います。

柔道整復師の職業倫理についてしっかり学んでいきましょう。

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 職業倫理 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	基本的責務、患者の同意について
3	診療録の記載と保存について
4	個人情報、応召義務について
5	セカンドオピニオン、広告の制限について
6	医師相互の関係、医師間の診療録の提供について
7	他の医療関係職との関連～医療事故の報告について
8	公的機関への通報～国際活動への参加について

シラバス（授業計画書）

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

医療人として不可欠な知識である衛生学・公衆衛生学の基本を学ぶ。

2 到達目標

それぞれの授業について、各々のテーマについて簡単に説明できること。

3 授業の方法

教科書に従って授業を進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験（100％）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習、復習をしてくること。予習することにより、授業内容を理解することができ、知識が深まる。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「衛生学・公衆衛生学」南江堂

8 学生へのメッセージ

教科書は読んで分からない事がありますが、授業が進むうちに理解が深まる。

9 教員氏名（ 松永省三 ）

所 属（ マツナガ歯科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

回数	授業内容
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動
2	健康の概念
3	疾病予防と健康管理
4	感染症の予防（総論）
5	感染症の予防（ウイルス感染症、細菌感染症）
6	感染症の予防（院内感染、予防接種）
7	消毒（総論）
8	消毒（消毒の種類と方法）
9	環境衛生（総論、環境問題、物理的・化学的要因）
10	環境衛生（公害、空気衛生、大気汚染）
11	生活環境、食品衛生活動（上水、下水など）
12	生活環境、食品衛生活動（栄養、廃棄物など）
13	疫学（意義と方法）
14	疫学（調査方法、バイアス）
15	前期のまとめ
16	答案返却および解説
17	母子保健（総論、母子保健指標）
18	母子保健（死産、小児保健、現状）
19	学校保健（総論、組織と運営）
20	学校保健（保健管理、保健教育）
21	産業保健（目的、職場の特徴）
22	産業保健（労働災害、職業病）
23	産業保健（物理、化学、作業様態による障害）
24	成人・高齢者保健（成人保健）
25	成人・高齢者保健（成人保健）
26	精神保健（精神保健の定義、病気）
27	地域保健と国際保健（地域保健）
28	地域保健と国際保健（WHO 活動）
29	衛生行政と保健医療の制度
30	医療の倫理と安全の確保
31	全体のまとめ
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復師に必要な柔道整復師法を、他の医療職の法規や医療法を加えながら学ぶ。
また、担当教員の実務経験を基に実体験も交えて、法律の難しさと具体例を参考に伝える。

2 到達目標

医療人として柔道整復師の立場から関係法規を十分理解できるようにする。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、講義内容に沿った国家試験過去問題集を使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

7 使用教材、教具

全国柔道整復師学校協会「関係法規」（2022 年版）南江堂

8 学生へのメッセージ

将来必要になる柔道整復師の法律となるので、他の医療職の法律と比較しながら知識の定着を目指してください。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 関係法規 ）

回数	授業内容
1	法の体系 P1～5
2	柔道整復師法 目的と定義 P6～10
3	免許 P11～18
4	柔道整復師国家試験 P20～22
5	業務と業務範囲 P24～28
6	施術所 P29～32
7	雑則 P33～36
8	罰則 P37～41
9	指定登録機関と指定試験機関、附則 P42～45
10	医療従事者の資格法 P47～64
11	医療法 P66～85
12	社会福祉関係法規 P88～91
13	社会保険関係法規 P93～100
14	その他の関係法規 101～105
15	前期のまとめ P1～105
16	定期試験&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

競技を目的とする柔道を教育するものではなく、柔道整復術の技術のバックボーンである主義や人格の形成、心身の鍛錬を目的として礼儀作法の習得

2 到達目標

柔道審査項目合格

3 授業の方法

第一ステージ － 柔道のよさを知り、楽しさを深めよう

第二ステージ － 基本動作の習得、得意技を身に付ける

第三ステージ － 形、試合を学び柔道実技審査合格

4 成績評価方法・基準

実技 100%

5 評価の際の特記事項

競技の目的の柔道を教育するものではなく、機能的特性、構造的特性を育てたく考えているので、実技試験並びに真面目に授業に参加する姿勢を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技練習は危険の為、プリントを配布して柔道の基礎的知識を学んでもらう。

7 使用教材，教具

柔道事故のデータブック 柔道の安全指導 柔道の授業作り 柔道の形 講道館形、技 DVD 等

8 学生へのメッセージ

柔道を通して、人としての振舞いの基本、礼儀作法を学んでほしい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

怪我、病気者は道着を着て、見学した際は出席とする。

通常教員による授業。

科目名（ 柔道Ⅰ ）

回数	授業内容
1	嘉納治五郎師範について、武道と柔道について
2	指導者の責任と安全配慮義務
3	柔道における事故要因と発生のメカニズム 事故や怪我を未然に防ぐ為には
4	礼法、柔道着の扱い方
5	後ろ受け身、補強運動
6	横受け身、前受け身、補強運動
7	姿勢と組み方、進退動作、組んでからの前回り受け身
8	崩しと体さばき、足を払われての受け身
9	固め技の基本動作
10	固め技の防御に必要な基本動作
11	立ち技での受け身の練習、小内刈り、大内刈り
12	立ち技での受け身の練習、出足払い、体落とし
13	立ち技での受け身の練習、背負い投げ
14	立ち技での受け身の練習、大腰、釣り込み腰
15	後期のまとめ
16	定期試験、答案返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会保障制度 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

社会保障制度の概要、介護保険の種類や基準について学び、担当教員の実務経験を基にした指導を行い、実践力を備えた人材へと成長を促す。

2 到達目標

社会保障制度、介護保険の内容を把握する。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配付している資料に関する復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

配布資料（授業にて配布）

8 学生へのメッセージ

資格取得後も必要な知識です。一緒に頑張りましょう。

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 社会保障制度 ）

回数	授業内容
1	医療保険の概要
2	医療保険の体系
3	国民健康保険と健康保険
4	介護保険の概要、保険者と被保険者
5	介護保険の区分支給限度額、保険料の算定
6	訪問介護、訪問リハビリ、デイサービス、デイケアの違いと内容
7	介護療養型施設、地域密着型サービス、公的年金制度
8	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

骨折、脱臼の症状や分類について復習を行い。担当教員の実務経験を基に外傷の特徴等を解説する。

2 到達目標

国家試験に向けて骨折や脱臼の理解を深める。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第6版）

8 学生へのメッセージ

国家試験に向けて基礎をしっかりと学びましょう。

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	脱臼の定義
2	脱臼の分類
3	脱臼の固有症状
4	脱臼の一般外傷症状
5	脱臼の合併症
6	脱臼の整復障害
7	骨折の定義
8	骨折の種類
9	骨折の特徴
10	骨折の一般外傷症状・固有症状
11	骨折の併発症・続発症・後遺症
12	小児骨折
13	高齢者骨折
14	骨癒合に好適な因子・不適な因子
15	脱臼総論・骨折総論 総復習
16	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

軟部組織損傷の総論・外傷予防。また、実務経験を基にした症状の特徴も踏まえて授業を実施する。

2 到達目標

軟部組織損傷の基本を理解する。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験（100％）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしてくること。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第7版）

8 学生へのメッセージ

整骨院やスポーツ現場で多々遭遇する軟部組織損傷の基本を学び、各論へ繋ぎ軟部組織損傷の理解を深めましょう。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	基本的な関節の構造
2	軟骨・靱帯
3	関節損傷の概説
4	関節損傷の症状
5	脱臼の分類
6	脱臼の症状
7	筋の構造
8	筋の機能
9	筋損傷の分類
10	腱損傷
11	神経損傷の分類
12	神経の再生
13	外傷予防（第1段階）
14	外傷予防（第2・3段階）
15	前期のまとめ
16	前期試験解説
17	患者とその環境の把握と実際
18	患者の環境に対する指導管理（日常生活動作）
19	患者の環境に対する指導管理（住宅環境）
20	患者の環境に対する指導管理（就労環境）
21	患者の環境に対する指導管理（スポーツ活動）
22	自己管理に対する指導（予防の認識と指導管理）
23	頭部、顔面部打撲
24	顎関節症Ⅰ～Ⅴ型
25	外傷性頸部症候群
26	胸郭出口症候群
27	寝違え（急性頸部痛）
28	胸部の軟部組織損傷
29	背部の軟部組織損傷
30	腰部の軟部組織損傷
31	後期のまとめ
32	後期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

関節構成組織の損傷（脱臼、捻挫など）の総論、診察方法、治療法（整復法、固定法）の総論、頭部、顔面の脱臼、脊椎の脱臼（各論）

2 到達目標

関節構成組織損傷についてのメカニズムを理解する。診察法、治療法の基礎を理解する。
頭部・顔面、脊椎の脱臼について発生機序、症状、治療法などを理解する

3 授業の方法

柔道整復学（理論編・実技編）などを用いて講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って教科書の予習・復習を行うとより理解を深めやすい。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、解剖学、配布資料など

8 学生へのメッセージ

関節構成組織損傷は日常、柔道整復施術所において遭遇することは非常に多い。その施術は柔道整復師にはとても重要な職務の一つである。適切な施術を行うための礎として、どの関節構成組織がどの程度損傷しているか、適切な施術にはどのような選択肢があるのかなどを理解することが重要である。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション, 関節の構造
2	関節の構造、機能
3	関節構成組織①
4	関節構成組織②
5	関節損傷の概説、分類
6	脱臼の分類①
7	脱臼の分類②
8	脱臼の症状
9	脱臼の整復障害
10	診察の注意、手順
11	診察の分類、治療計画
12	施術録
13	予備・復習
14	予備・復習
15	前期試験
16	解説
17	整復法
18	骨折の整復法①
19	骨折の整復法②
20	脱臼の整復法
21	軟損の初期処置
22	固定時の配慮
23	固定後の配慮①
24	固定後の配慮②
25	予備・復習
26	顎関節脱臼①
27	顎関節脱臼②
28	脊椎脱臼①
29	脊椎脱臼②
30	予備・復習
31	後期試験
32	解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師として必要不可欠な柔道整復学を中心に学習する。また担当教員の実務経験を基にした外傷の注意点等も含めて授業を実施する。

2 到達目標

臨床に必要な知識・技能を身につける。

3 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編（改定第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

覚えることが多い科目ですが国家試験の出題頻度も高いので、知識と理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	柔道整復師の沿革
3	業務範囲とその心得
4	人体に加わる力
5	骨の形態と機能
6	骨損傷の概説
7	骨損傷の分類
8	骨折の症状
9	骨折の合併症
10	小児・高齢者骨折の特徴
11	骨折の癒合日数
12	骨折の治癒経過
13	骨折の予後
14	骨折の治癒に影響を与える因子
15	前期の復習
16	試験返却&解説
17	胸・背部の解剖と機能
18	肋骨骨折、肋軟骨骨折
19	胸骨骨折
20	上部胸椎棘突起骨折
21	胸椎椎体骨折
22	胸椎部脱臼骨折
23	胸腰椎移行部脱臼骨折
24	胸・背部の軟部組織損傷
25	胸・背部その他の疾患
26	下位腰椎椎体圧迫骨折
27	チャンス骨折、腰椎椎体破裂骨折
28	腰椎肋骨突起骨折
29	腰椎の脱臼
30	腰部の軟部組織損傷
31	腰部その他の疾患
32	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復師として必要な包帯の基礎、固定材料を用いた固定方法のやり方を学習する。
また、担当教員の実務経験を基にした固定材料の作成、部位に応じた固定の実践を行う。

2 到達目標

固定法の基礎知識を身に付け、必要に応じて固定材用の作成、それを用いた固定法を実施できるようになる。

3 授業の方法

患者役、施術者役に分かれてお互いの身体に包帯を行う。
固定材料（硬性・軟性）の作り方を学び、固定具を使用して包帯を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技は積み重ねの練習で身に付くものであるため、積極的に取り組み技能の習得を心掛けましょう。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学学校協会編「包帯固定学」

8 学生へのメッセージ

包帯固定学は柔道整復師の基本であり、習得することによりテーピングなどの応用にも繋がります。臨床でも必要な技術のため実技時間を大切にしていきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	包帯の巻き方と注意事項
3	基本包帯法 環行帯・螺旋帯・蛇行帯
4	基本包帯法 手関節・足関節
5	基本包帯法 肘関節・膝関節
6	基本包帯法 肩関節
7	基本包帯法 前腕部・下腿部
8	基本包帯法 手～肘包帯
9	基本包帯法 肘～肩包帯
10	基本包帯法 足～膝包帯
11	冠名包帯法 デゾー包帯
12	冠名包帯法 ヴェルポー包帯・ジュール包帯
13	さらし包帯法
14	クラーメルシーネの作成
15	前期復習
16	定期試験&解説
17	肘関節後方脱臼の固定 1
18	肘関節後方脱臼の固定 2
19	ヴェルポー、ジュール、デゾー包帯固定
20	肩関節後方脱臼の固定 1
21	肩関節前方脱臼の固定 2
22	肩鎖関節上方脱臼の固定 1
23	肩鎖関節上方脱臼の固定 2
24	肘関節後方脱臼固定復習・肩関節前方脱臼固定復習
25	鎖骨骨折の固定 1
26	鎖骨骨折の固定 2
27	鎖骨骨折固定復習
28	コーレス骨折の固定 1
29	コーレス骨折の固定 2
30	コーレス骨折固定復習
31	後期復習
32	定期試験&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復師となるための臨床実習を迎えるにあたり、外傷の診断に必要な知識、技能を得るための触診や徒手検査法についての理解、技術習得を目的とする。

また、基本的な施術、テーピング固定を習得し、接骨院の現場での実践力を養う。

2 到達目標

体表解剖学を理解したうえで、触診・徒手検査法を習得し、身体の状態、疾患（外傷）を特定することができる能力を高める。

また、基本的な施術の種類、テーピング等の能力を高める。

3 授業の方法

解剖学、柔道整復学などの教科書や配布資料を基にして授業を行う。

また、患者役や施術者役に分かれて、身体に各種徒手検査・施術・テーピング等を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

知識は教科書、配布資料の内容を予習・復習する。

実技は練習重ねることで、理論的部分も合わせて技能を高める。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編）、柔道整復学（実技編）、解剖学、包帯固定法及び配布資料。

8 学生へのメッセージ

接骨院・整骨院に従事するために、施術・テーピング・検査法はいずれも必要不可欠で大切なものです。全時間の授業を出席するつもりで臨んでください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	解剖学的用語①
3	解剖学的用語②
4	人体の区分
5	人体の再区分
6	骨の形状の用語
7	骨格系の体表解剖
8	筋系の体表解剖
9	脈管系の体表解剖
10	神経系の体表解剖
11	予備・復習
12	前期試験・解説
13	手技療法①
14	手技療法②
15	運動療法①
16	運動療法②
17	テーピングの基礎
18	テーピングの巻き方
19	足関節のテーピング①
20	足関節のテーピング②
21	足関節のテーピング③
22	予備・復習
23	後期試験・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

解剖学のうち、生命活動に直接結びつく神経系、脈管系、内臓系、内分泌器、感覚器の構造について学習する。

2 到達目標

神経系、消化器・呼吸器、泌尿生殖器などの構成と特徴、心血管系の経路を説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書、授業プリント、PC プロジェクタを利用した講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

中間試験・後期試験成績で評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間評価を 40%、後期評価を 60%の割合で通年での総合評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って事前に教科書の予習をしておくこと。これにより、授業内容の理解が深まる。また復習で知識の定着がなされているかを確認するため、小テストを実施する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「解剖学」（改定第2版） 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

解剖学は他の科目の基礎となる最も重要な科目なので予習・復習をしっかり行うこと。また、局所を断片的に勉強するだけでなく、他の部位とのつながりのなかで個々の特徴を理解することが必要である。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	6 神経系 A 神経系の区分 神経組織 終脳（大脳半球）大脳皮質の機能局在
2	6 神経系 B 脳 大脳骨髄 大脳基底核 間脳 中脳 橋
3	6 神経系 B 脳 延髄 小脳 脳室核 髄膜と脳脊髄液
4	6 神経系 C 脊髄 区分 灰白質と白質 ベル・マジャンディーの法則 反射
5	6 神経系 C 脊髄 上行性伝導路 下行性伝導路 脳神経 種類と作用
6	6 神経系 D 末梢神経 脊髄神経 神経叢
7	6 神経系 D 末梢神経 デルマトーム 自律神経 節前線維と節後線維
8	3 脈管系 A 総論 体循環と肺循環 血管の形態と構造
9	3 脈管系 B 心臓 位置と形態 構造 心膜 刺激伝導系
10	3 脈管系 C 心脈管系 動脈系 大動脈 頭頸部の動脈 大脳動脈輪
11	3 脈管系 C 心脈管系 動脈系 上肢・胸腹部の動脈
12	3 脈管系 C 心脈管系 動脈系 骨盤部・下肢の動脈
13	3 脈管系 C 心脈管系 静脈系 腕頭静脈 内頸静脈 硬膜静脈洞
14	3 脈管系 C 心脈管系 静脈系 骨盤部・下肢の静脈 胎児循環
15	3 脈管系 D リンパ系 リンパ本管 リンパ性器官 脾臓 胸腺
16	中間試験、答案返却および解説
17	4 内臓系 A 消化器 消化管と消化線 消化管壁の構造 口腔 歯 唾液腺 舌
18	4 内臓系 A 消化器 咽頭 食道 嚥下 腹膜
19	4 内臓系 A 消化器 胃 小腸 十二指腸 空腸 回腸
20	4 内臓系 A 消化器 大腸 肝臓 胆嚢 膵臓
21	4 内臓系 B 呼吸器 鼻腔 喉頭 気管・気管支
22	4 内臓系 B 呼吸器 気管支の分岐 肺 胸膜
23	4 内臓系 C 泌尿器 腎臓 腎小体 腎単位 腎臓の血管
24	4 内臓系 C 泌尿器 尿管 膀胱 尿道
25	4 内臓系 D 生殖器 男性生殖器 女性生殖器
26	4 内臓系 D 生殖器 卵巣と子宮の周期的変化、胎盤
27	5 内分泌系 内分泌器の働き 内分泌器 下垂体 松果体 甲状腺
28	5 内分泌系 上皮小体 副腎 膵臓 精巣と卵巣
29	7 感覚器 A 外皮 皮膚 筋 腱 関節の感覚神経
30	7 感覚器 B 視覚器 眼球 網膜 副眼器 視覚器
31	7 感覚器 C 聴覚器および平衡器 D 味覚器 E 嗅覚器
32	定期試験、答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生理学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

医療人として不可欠な知識である生理学の中から、解剖生理を基本として循環、呼吸、消化といった生命活動に直接結びつく機能等について講義とテスト形式で学習する。

2 到達目標

授業を通じて得られた生命活動に関するキーワードについて簡単に説明できるようになる知識、自分の意見等をまとめ、他人に伝える力を見につける。

3 授業の方法

ホワイトボードによる講義、まとめプリントのチェック

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

定期試験による評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習により授業内容をよく理解することができ、復習により知識が定着することができるため、予習復習を必ず行う。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「生理学」（改定第4版）南江堂

8 学生へのメッセージ

生理学の教科書は、最初の頃は読んでも意味がわかりませんが、あきらめないことが大事。授業が進むうちに色々な部分と繋がりが見えるようになり必ず理解できるようになります。

9 教員氏名（ 永松 敬 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 生理学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	生理学Ⅰの確認（生理学とは、筋の生理）
2	生理学Ⅰの確認（神経の生理、運動学の生理）
3	生理学Ⅰの確認（感覚の生理、内分泌、生殖）
4	生理学Ⅰの確認（血液、骨の生理）
5	循環（心臓、血管）
6	循環（血管、リンパ系、循環調節）
7	呼吸の生理（呼吸器の構造、換気）
8	後宮の生理（ガス交換と運搬、呼吸周期の調節）
9	尿の生成と排泄（腎臓の構造と機能、尿の生成）
10	尿の生成と排泄（腎血流量、排尿、腎臓による体液の調節）
11	栄養と代謝（生体に必要な栄養素、エネルギー代謝）
12	栄養と代謝（栄養素の代謝、食物と栄養）
13	体液の生理学1 体液の区分と組織
14	体液の生理学2 体液の恒常性を維持するしくみ
15	前期のまとめ
16	前期試験 答案返却および解説
17	神経の基本的機能1 構造
18	神経の基本的機能2 電位、刺激、チャネル
19	神経の基本的機能3 興奮の伝導、伝達
20	神経系の機能1 中枢神経（大脳、間脳）
21	神経系の機能2 中枢神経（脳幹、小脳）
22	神経系の機能3 中枢神経（脊髄、反射）
23	神経系の機能4 末梢神経
24	筋肉の機能1 特徴と構造
25	筋肉の機能2 筋収縮のしくみ
26	筋肉の機能3 筋収縮のエネルギー、平滑筋、心筋
27	感覚の生理学1 感覚の種類と受容器
28	感覚の生理学2 感覚の一般的性質
29	感覚の生理学3 体性感覚、特殊感覚
30	感覚の生理学まとめ
31	全体のまとめ
32	後期試験、答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 運動学 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

身体の運動について、その全体像を概観する。

2 到達目標

運動学的基礎知識の習得と身体運動のメカニズムについて考察できるようになる。

3 授業の方法

教科書および適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。また、授業毎に小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会 監修 「運動学 第3版」 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

私たちが何気なく行っている身体運動は複雑なメカニズムより構成されています。このことを理解することは、治療成績や臨床成績を向上するために必須となります。よりよい治療家となり将来の患者様の役に立つことが出来るよう、運動学の基礎を学びましょう。

9 教員氏名（ 川上 恭 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 運動学 ）

回数	授業内容
1	運動の表し方
2	身体運動と力学
3	運動器の構造と機能
4	神経の構造と機能
5	反射と随意運動
6	四肢と体幹の運動（肩甲帯）
7	四肢と体幹の運動（肘関節）
8	四肢と体幹の運動（手関節・手部）
9	四肢と体幹の運動（股関節）
10	四肢と体幹の運動（膝関節）
11	四肢と体幹の運動（股関節）
12	四肢と体幹の運動（足関節）
13	四肢と体幹の運動（頸椎・胸椎）
14	四肢と体幹の運動（腰椎）
15	まとめ・試験対策
16	答案返却および解説
17	立位姿勢のランドマーク
18	立位姿勢のメカニズム・筋活動
19	歩行（歩行周期）
20	歩行（運動学的解析）
21	歩行（運動力学的解析）
22	歩行（筋活動）
23	歩行（エネルギー代謝）
24	歩行（走行・異常歩行）
25	運動学習（記憶）
26	運動学習（動機づけ・結果の知識）
27	まとめ（解剖学・生理学的基礎）
28	まとめ（四肢・体幹の運動学）
29	まとめ（立位・運動学習）
30	まとめ（歩行）
31	試験対策
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 病理学 ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 2 年

1 授業の内容

疾患が発生する基本原理を学ぶ

2 到達目標

病気とその基盤になる細胞、組織レベルの現象を結び付けて考える事ができる。

3 授業の方法

教科書に従って授業を進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習を行うこと。予習することにより授業内容を理解することができ、知識が深まります。

7 使用教材，教具

「病理学」医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

病理学の授業はじめは、教科書を読んでも分からないが、授業が進むうちに色々な部分の繋がりが分かるようになり理解が深まります。

9 教員氏名（ 松永省三 ）

所 属（ マツナガ歯科 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 病理学 ）

回数	授業内容
1	病理学概要
2	病因（内因）
3	病因（外因）
4	循環障害（ヒトの循環系）
5	循環障害（充血、うつ血）
6	循環障害（貧血、虚血）
7	循環障害（出血）
8	循環障害（血栓症）
9	循環障害（塞栓症）
10	循環障害（梗塞）
11	循環障害（水腫、浮腫、脱水症、ショック）
12	退行性病変（萎縮）
13	退行性病変（変性）
14	退行性病変（壊死と死）
15	前期まとめ
16	前期試験、答案返却および解説
17	退行性病変（再生、化生、移動）
18	退行性病変（創傷治療）
19	退行性病変（組織内異物の処理）
20	炎症（炎症の一般）
21	炎症（炎症の分類）
22	腫瘍（腫瘍の一般）
23	腫瘍（良性腫瘍）
24	腫瘍（悪性腫瘍）
25	免疫異常（液性免疫と細胞性免疫）
26	免疫異常（アレルギー）
27	免疫異常（免疫不全、自己免疫異常）
28	先天性異常（総論）
29	先天性異常（遺伝性疾患）
30	先天性異常（染色体異常）
31	全体のまとめ
32	後期試験、答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 一般臨床医学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 2 年

1 授業の内容

一般臨床医学Ⅰは、臨床において最低限知っておかなければならない大切な科目の1つである。前期は主な疾患の概要、症状、検査、治療等について、後期は診察概論・各論で患者への身体観察等を中心に学習する。

2 到達目標

- ・ 診察の意義、診察の方法を理解し、その内容が説明できる。
- ・ 主な疾患の概要を理解し、その原因や徴候など特徴が説明できる。

3 授業の方法

- ・ 授業は講義形式で行い、單元ごとに国家試験問題を解き理解を深める。
- ・ 小テストは單元ごとに年6回実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 75%、小テスト 25%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、前期と後期の試験を合計し評価する。小テストは平均点を最終評価に加えます。授業態度は、授業への積極性で評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

- ・ 授業で配布するプリントを自宅での復習教材として活用する。
- ・ 国家試験問題プリントで試験の傾向を確認する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学協会編「一般臨床医学Ⅰ」（改訂3版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

一般臨床医学Ⅰの内容は、既学習済みである生理学や解剖学の知識を必要となるため、各科目復習をしながら授業に臨んでもらいたい。また、国家試験においては主要な科目に位置づけられているため教科書のボリュームも多く日頃より計画的に予習や復習に努めて欲しい。

9 教員氏名（ 田中巧 ）

所 属（ はり灸リンパトリートメントサロン 田中家+ ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 一般臨床医学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	主要な疾患A呼吸器疾患①総論（かぜ症候群、インフルエンザ）
2	主要な疾患A呼吸器疾患②（急性気管支炎、慢性気管支炎、肺炎、結核菌）
3	主要な疾患A呼吸器疾患③（気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺癌）
4	主要な疾患A呼吸器疾患④（肺血栓塞栓症、気胸）B循環器疾患①総論
5	主要な疾患B循環器疾患②（うっ血性心不全、虚血性心疾患、心臓弁膜症）
6	主要な疾患B循環器疾患③（先天性心疾患、高血圧症、大動脈疾患）
7	主要な疾患B循環器疾患④（静脈疾患、不整脈）C消化器疾患①総論
8	主要な疾患C消化器疾患②a（食道炎、食道癌、マロリー、ワイス症候群）
9	主要な疾患C消化器疾患③a（食道静脈瘤、急性・慢性胃炎、消化性潰瘍）
10	主要な疾患C消化器疾患④a（胃癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、過敏性腸症候群）
11	主要な疾患C消化器疾患⑤a（虚血性大腸炎、大腸癌、虫垂炎、腸閉塞）
12	主要な疾患C消化器疾患⑥b肝胆膵疾患（急性肝炎、慢性肝炎、劇症肝炎）
13	主要な疾患C消化器疾患⑦b肝胆膵疾患（その他の肝障害、肝硬変、胆石症、胆嚢炎）
14	主要な疾患C消化器疾患⑧b肝胆膵疾患（胆嚢ホリープ、胆嚢癌、総胆管癌、急性膵炎、慢性膵炎）
15	主要な疾患C消化器疾患⑨b肝胆膵疾患（膵癌） C腹膜疾患（急性腹膜炎）
16	前期試験 答案返却および解説
17	主要な疾患D代表疾患①総論（糖尿病の概要、慢性合併症、大血管障害）
18	主要な疾患D代表疾患②（脂質異常症、肥満症、メタボリックシンドローム、痛風）
19	主要な疾患E内分泌疾患②総論（先端巨大症、下垂体性巨人症）
20	主要な疾患E内分泌疾患③（下垂体性小人症、尿崩症、パセドウ病、甲状腺機能低下症）
21	主要な疾患E内分泌疾患④（クレチン症、原発性副甲状腺機能亢進症、クッシング症候群）
22	主要な疾患E内分泌疾患⑤（アジソン病、原発性アルドステロン症、褐色脂肪細胞）
23	主要な疾患F血液・造血器疾患①総論（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血）
24	主要な疾患F血液・造血器疾患②（溶血性貧血、再生不良性貧血、急性白血病、慢性白血病）
25	主要な疾患F血液・造血器疾患③（悪性リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、血友病）
26	主要な疾患G腎・尿路疾患①a 主要徴候 b 主要検査（蛋白尿、血尿、糸球体濾過量）
27	主要な疾患G腎・尿路疾患②（腎不全、慢性腎臓病、糸球体腎炎、IgA 腎症）
28	主要な疾患G腎・尿路疾患③（ネフローゼ症候群、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺肥大症、尿路結石）
29	主要な疾患H神経疾患①総論について
30	後期まとめ
31	前期・後期まとめ
32	後期試験 答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 外科学概論 ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 2 年

1 授業の内容

医療人として不可欠な知識である外科学概論を各分野学習する。

2 到達目標

それぞれの授業について、キーワードを少なくとも5個あげて、それについて簡単な説明ができるようになる。

3 授業の方法

教科書に従って授業を進める。

4 成績評価方法・基準

定期試験100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習を行うこと。

7 使用教材，教具

外科学概論 改訂第4版（南江堂）

8 学生へのメッセージ

外科学を体系的に学ぶ最後の期会になると思います。大事なことをスライドで解説します。

9 教員氏名（ 丸山祐一郎 ）

所 属（ 佐世保共済病院 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 外科学概論 ）

回数	授業内容
1	損傷
2	炎症と外科感染症
3	腫瘍
4	ショック
5	消毒
6	消化器癌、腹部外科疾患
7	小腸・大腸の解剖、疾患
8	肝疾患
9	外傷
10	出血、外傷
11	輸血、点滴
12	胆石
13	腹部外科
14	外科まとめ①外科感染症
15	外科まとめ②腹部外科疾患
16	定期試験 答案返却・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 整形外科学 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1. 授業の内容

総論では、整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科治療法、骨関節損傷総論などについての学習。また各論では、疾患別・身体部位別に学習していく。

2. 到達目標

- 1) 総論では、運動器についての基礎知識、代表的な整形外科診察法、整形外科検査法、整形外科治療法などについての理解を深める。
- 2) 各論では、整形外科疾患の概念、定義、疫学、病因、病態、症状、検査所見、治療法、予後などを理解していく。

3. 授業の方法

プリントを配布後、パワーポイントを使用しての講義を行う。

4. 成績評価方法・基準

基本的には定期試験にて評価をするが、授業出席率・授業態度も加味する。

5. 評価の際の特記事項

特になし。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

分量が非常に多い科目ですので、一気に覚えるのはとても難しいと思います。
授業時に話したポイントに関してはこまめに復習し、覚えるようにしてください。

7. 使用教材

社団法人全国柔道整復学校協会監修：整形外科学 改訂第3版，南江堂。
配布プリント

8. 学生へのメッセージ

覚えるべき分量が多い科目ですが、各整形外科疾患の知識を深め、国家試験だけでなく、資格取得後、臨床の場においても応用できる知識を身につけていきましょう。

9. 教員名 （ 川上 恭 ）

所 属 （ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

10. 特記事項

通常教員による授業

科目名(整形外科学)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、整形外科とは
2	整形外科学の診察法・診断法
3	整形外科学の検査法・治療法
4	疾患別各論 感染性疾患
5	疾患別各論 骨及び軟部腫瘍
6	疾患別各論 非感染性軟部・骨関節疾患
7	疾患別各論 全身性の骨・軟部疾患、
8	ここまでのまとめ
9	疾患別各論 骨端症
10	疾患別各論 四肢循環障害、下肢の神経麻痺、
11	疾患別各論 上肢の神経麻痺、神経障害
12	全身性の神経、筋疾患
13	手指の変形
14	身体部位別各論、腰部・膝
15	全範囲のまとめ
16	答案返却及びその解説授業

シラバス（授業計画書）

科目名（ リハビリテーション医学 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

リハビリテーションの概要と、各疾患における考え方について概説する。

2 到達目標

リハビリテーションの理念と各疾患に対する考え方を理解することができる。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義のほか、講義毎に小テストを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

社団法人全国柔道整復学校協会 監修，リハビリテーション医学 改訂第3版，南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復を学ぶ上で馴染みが薄いと思われるリハビリテーションの概念ですが，柔道整復師も施設で機能訓練士として働くこともできます。そのため患者様のよりよい日常生活や高いQOLの獲得に向けて，一緒にその概念や考え方を学びましょう。

9 教員氏名（ 三根 立己 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ リハビリテーション医学 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション，リハビリテーション概論
2	リハビリテーション関連職種
3	リハビリテーション基礎医学（解剖学・運動学）
4	リハビリテーション基礎医学（障害学）
5	リハビリテーション基礎医学（治療学）
6	評価と診断（問診）
7	評価と診断（身体計測）
8	評価と診断（関節可動域測定）
9	評価と診断（MMT）
10	評価と診断（痙縮・協調性）
11	評価と診断（高次脳機能障害）
12	評価と診断（認知機能・ADL）
13	評価と診断（画像）
14	まとめ（リハビリテーションの概念，傷害・治療）
15	まとめ（評価）
16	疾患別リハビリテーションの概念
17	リハビリテーション（脳血管疾患の概要）
18	リハビリテーション（脳血管の実際）
19	リハビリテーション（脊髄損傷の概要）
20	リハビリテーション（脊髄損傷の実際）
21	リハビリテーション（切断の概要）
22	リハビリテーション（切断の実際）
23	リハビリテーション（末梢神経障害の概要）
24	リハビリテーション（末梢神経障害の実際）
25	リハビリテーション（運動器疾患の概要）
26	リハビリテーション（運動器疾患の実際）
27	リハビリテーション（内部疾患・高齢者の概要）
28	リハビリテーション（内部疾患・高齢者の実際）
29	まとめ（リハビリテーション：脳血管疾患、脊髄損傷、切断）
30	まとめ（リハビリテーション：末梢神経障害・運動器疾患・内部障害）
31	試験対策
32	解答・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

- ①技能内容（基本動作、对人的技能、試合）
- ②態度の内容（伝統的な行動の仕方、社会的態度）
- ③学び方の内容（課題の解決の仕方）

2 到達目標

柔道審査項目合格

3 授業の方法

- 第1ステージ 基本動作の習得、得意技を身に付ける
- 第2ステージ 形、試合を学び柔道実技審査合格

4 成績評価方法・基準

実技100%

5 評価の際の特記事項

競技目的の柔道を教育するものではなく、機能的特性、構造的特性を育てたいと考えているので、実技試験並びに真面目に授業に参加する姿勢を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技練習は危険の為、プリントを配布して柔道の基礎的知識を学んでもらう。

7 使用教材，教具

柔道事故データブック、柔道の安全指導、柔道の授業作り、柔道の形、講道館形、技DVDなど

8 学生へのメッセージ

武道固有の内容から、相手を尊重する態度や正しい礼法を学んでほしい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

怪我、病気者は道着を着て、授業を見学することで出席とする。
通常教員による授業。

科目名（ 柔道Ⅱ ）

回数	授業内容
1	体ほぐしの運動の捉え方
2	自然本体、自護本体、進退動作、受身、崩しの方法と方向等の復習
3	投げ技 ― 手技（体落とし） 受身の必要性を理解させる
4	投げ技 ― 手技（背負い投げ） 伝統的な行動の仕方
5	投げ技 ― 腰技（大腰） 社会的態度、健康、安全にかかわる態度
6	投げ技 ― 腰技（釣り込み腰） すかし技
7	投げ技 ― 腰技（払い腰） 柔道着カラー化の歴史的流れ
8	投げ技 ― 腰技（跳ね腰） 山嵐
9	投げ技 ― 足技（膝車） 日本書記に記された柔道と相撲の起源
10	投げ技 ― 足技（支え釣り込み足） 柔道と柔術の違い
11	投げ技 ― 足技（大外刈り） 柔道着の規格
12	投げ技 ― 足技（大内刈り） 柔道事故と防ぎ方
13	投げ技 ― 足技（小内刈り） 初段を取る為には
14	投げ技 ― 足技（出足払い） 投げ技から投げ技への変化技
15	技 ― 内股 投げ技から固め技への変化技 前期まとめ
16	定期試験、答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

- ①技能内容（応用動作、対人的技能、試合）
- ②態度の内容（伝統的な行動の仕方、社会的態度）
- ③認定実技審査要領

2 到達目標

柔道審査項目合格

3 授業の方法

- 第1ステージ 基本動作の習得、得意技を身に付ける
- 第2ステージ 形、試合を学び柔道実技審査合格
- 第3ステージ 礼儀作法

4 成績評価方法・基準

実技100%

5 評価の際の特記事項

競技目的の柔道を教育するものではなく、機能的特性、構造的特性を育てたいと考えているので、実技試験並びに真面目に授業に参加する姿勢を評価する

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技練習は危険の為、プリントを配布して柔道の基礎的知識を学んでもらう。

7 使用教材，教具

柔道事故データブック、柔道の安全指導、柔道の授業作り、柔道の形、講道館形、技DVDなど

8 学生へのメッセージ

武道固有の内容から、相手を尊重する態度や正しい礼法を学んで認定実技審査にむきあってほしい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

怪我、病気者は道着を着て、授業を見学することで出席とする
通常教員による授業。

科目名（ 柔道Ⅲ ）

回数	授業内容
1	技 ― 送り足払い 前足から後足の体重移動
2	技 ― 隅落とし 移動打込
3	技 ― 足車 追込み打込
4	打込の応用、連続掛
5	乱取と組み手のポイント
6	相四つとケンカ四つ
7	試合の基本的ルーツ
8	試合のルール 試合について
9	試合のルール 試合場について
10	試合のルール 技の判定について
11	試合のルール 反則について
12	試合のルール 反則になる禁止行為について
13	試合のルール 講道館審判規定 国際審判規定
14	試合のルール 講道館審判規定 国際審判規定
15	試合のルール 少年ルール 審判の合図 後期まとめ
16	定期試験、答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

上肢骨折について学び、実践力を備えた人材へと成長を促す。また担当教員の実務経験を基に各外傷の特徴等を解説する。

2 到達目標

柔道整復師として上肢骨折の診察、治療が行えるようになる。

3 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶が身につくため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第6版）

8 学生へのメッセージ

覚えることが多い科目ですが国家試験の出題頻度も高いので、知識と理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折 1
2	鎖骨骨折 2
3	肩甲骨骨折
4	上腕骨骨折（骨頭骨折・解剖頸骨折）
5	上腕骨骨折（外科頸骨折 1）
6	上腕骨骨折（外科頸骨折 2）
7	大結節骨折・小結節骨折
8	上腕骨骨幹部骨折 1
9	上腕骨骨幹部骨折 2
10	上腕骨顆上骨折 1
11	上腕骨顆上骨折 2
12	上腕骨外顆骨折
13	上腕骨内側上顆骨折
14	橈骨近位端部骨折
15	肘頭骨折
16	答案返却および解説
17	橈骨骨幹部骨折
18	尺骨骨幹部骨折
19	モンテギア骨折
20	橈・尺骨両骨骨幹部骨折
21	コーレス骨折
22	スミス骨折
23	バートン骨折・ショーファー骨折
24	舟状骨骨折
25	三角骨骨折・有鉤骨骨折・豆状骨骨折
26	月状骨骨折・大菱形骨骨折・有頭骨骨折
27	中手骨骨折（骨頭部骨折・頸部骨折・骨幹部骨折）・ベネット骨折
28	基節骨骨折
29	中節骨骨折
30	末節骨骨折
31	試験対策
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

教員の実務経験を基に実務に必要な技術・知識の習得を促し、軟部組織損傷の診察や検査法も学ぶ。

2 到達目標

軟部組織損傷の診察や検査法を充分に行える。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義と実技。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第6版）

8 学生へのメッセージ

国家試験だけではなく、資格取得後にも必要な知識になりますのでしっかり学習していきましょう。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	膝関節触診
2	膝関節徒手検査法
3	下肢部、股関節、脊柱部徒手検査法
4	胸郭、上肢部徒手検査法
5	大腿部肉離れ 診察および検査法
6	下腿三頭筋損傷 診察および検査法
7	大腿四頭筋打撲 診察および検査法
8	腱板損傷 診察および検査法
9	上腕二頭筋長頭腱損傷 診察および検査法
10	足関節外側靱帯損傷 診察および検査法
11	十字靱帯損傷 診察および検査法① （ラックマンテスト）
12	十字靱帯損傷 診察および検査法② （前方引き出しテスト・Nテスト）
13	膝半月板損傷 診察および検査法
14	膝側副靱帯損傷 診察および検査法
15	徒手検査法 総復習
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

固定法や運動療法についての授業を実施する。また担当教員の実務経験を基に各手技等の特徴等を解説する。

2 到達目標

固定の目的や手技療法の種類、運動療法を学び臨床でも使える知識を身につける。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材、教具

柔道整復学・理論編 改訂版第 6 版

8 学生へのメッセージ

臨床の現場で実際に用いる固定法を身につけましょう。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅷ ）

回数	授業内容
1	固定の目的
2	固定の種類、固定の範囲
3	固定の肢位
4	固定の期間
5	固定材料
6	後療法
7	手技療法
8	運動療法

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

柔道整復師の資格取得に必要な下肢骨折についての知識を深める。また、患者への接遇（インフォームドコンセント）、診察方法、施術などの実践力を身に付ける。

2 到達目標

下肢骨折について発生機序、症状（診察内容）、施術方法（整復・固定・後療法など）、予後・注意点などを理解する。

3 授業の方法

柔道整復学（理論編・実技編）などの教科書を用いて行う講義や模範実技による。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の予習・復習を行うと良い。また、実技に関しては忘却しないよう繰り返し復習を行うと良い。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学など

8 学生へのメッセージ

国家試験受験や柔道整復師として従事するために、重要かつ必要な知識のため、深い理解が必要です。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨盤骨骨折（単独 Fr）
3	骨盤骨骨折（骨盤輪 Fr）
4	大腿骨近位端部骨折（骨頭 Fr）
5	大腿骨近位端部骨折（頸部 Fr）
6	大腿骨近位端部骨折（転子部 Fr）
7	大腿骨骨幹部骨折①
8	大腿骨骨幹部骨折②
9	大腿骨遠位端部骨折（顆上 Fr）
10	大腿骨遠位端部骨折（骨端線離開）
11	大腿骨遠位端部骨折（顆部 Fr）
12	膝蓋骨骨折
13	予備・復習
14	予備・復習
15	前期試験
16	解説
17	下腿骨近位端部骨折（脛骨顆部 Fr）
18	下腿骨近位端部骨折（腓骨頭 Fr）
19	下腿骨骨幹部骨折①
20	下腿骨骨幹部骨折②
21	下腿骨疲労骨折
22	果部骨折①
23	果部骨折②
24	果部骨折③
25	距骨骨折
26	踵骨骨折
27	舟状骨・立方骨・楔状骨骨折
28	中足骨骨折
29	足趾骨折
30	予備・復習
31	後期試験
32	解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

柔道整復師の資格取得に必要な上肢及び下肢の脱臼についての知識を深める。また、患者への接遇（インフォームドコンセント）、診察方法、施術などの実践力を身に付ける。

2 到達目標

上肢及び下肢の脱臼について発生機序、症状（診察内容）、施術方法（整復・固定・後療法など）、予後・注意点などを理解する。

3 授業の方法

柔道整復学（理論編・実技編）などの教科書を用いて行う講義や模範実技による。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の予習・復習を行うと良い。また、実技に関しては忘却しないよう繰り返し復習を行うと良い。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）

8 学生へのメッセージ

国家試験受験や柔道整復師として従事するために、重要かつ必要な知識のため、深い理解が必要です。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	胸鎖関節脱臼
3	肩鎖関節脱臼①
4	肩鎖関節脱臼②
5	肩関節前方脱臼①
6	肩関節前方脱臼②
7	肩関節後方脱臼
8	肩関節脱臼（その他）
9	肘関節後方脱臼①
10	肘関節後方脱臼②
11	肘関節脱臼（その他）
12	肘内障
13	予備・復習
14	予備・復習
15	前期試験
16	解説
17	手関節脱臼①
18	手関節脱臼②
19	CM、MP 関節脱臼
20	PIP,DIP 関節脱臼
21	予備・復習
22	予備・復習
23	股関節脱臼①
24	股関節脱臼②
25	膝蓋骨脱臼
26	膝関節脱臼
27	足部脱臼
28	足指の脱臼
29	予備・復習
30	予備・復習
31	後期試験
32	解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

実技室を施術所と想定して、物理療法の実技の授業を実施する。また担当教員の実務経験を基に各機器の効果的な使用方法も解説する。

2 到達目標

物理療法の機器の効果を理解し安全に使用することができる。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材、教具

柔道整復学・理論編 改訂版第 6 版

8 学生へのメッセージ

教員の実体験も交えて授業行います。臨床現場において、物理療法機器は使用頻度の高いものなので、内容を理解し、安全で効果の高い使用方法を学びましょう。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

回数	授業内容
1	物理療法の分類
2	低周波電気刺激療法
3	中周波電流療法
4	温熱療法
5	超音波療法
6	光線療法
7	牽引療法
8	総復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

軟部組織（筋・腱・靱帯・神経等）の損傷について各部位別に学習する。また担当教員の実務経験を基に各外傷の解説も実施する。

2 到達目標

軟部組織損傷の各論を理解し、鑑別疾患と比較出来るようになる。

3 授業の方法

PC プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義の他、定期的に小テストを行う。臨床の場で実際に行う手技の指導も行う。

4 成績評価方法

定期試験 80%、小テスト 20%

5 評価の際の特記事項

特に無し。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業進度計画に沿った教科書の予習・復習を行うこと。

授業で配布される資料の復習を行うこと。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

臨床の場で遭遇しやすい軟部組織損傷の基礎を学び現場へと活かして欲しいです。

担当教員が実際に現場で経験した症例を交えているので、将来の臨床の場で対応できる知識を習得して下さい。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	軟部組織損傷 肩部および上腕部損傷の鑑別方法 1
2	軟部組織損傷 肩部および上腕部損傷の鑑別方法 2
3	軟部組織損傷 肩部および上腕部損傷の鑑別方法 3
4	軟部組織損傷 肩部および上腕部損傷の鑑別方法 4
5	小テストおよび解説、肩部および上腕部損傷の鑑別方法まとめ
6	軟部組織損傷 肘部および前腕部障害の鑑別方法 1
7	軟部組織損傷 肘部および前腕部障害の鑑別方法 2
8	軟部組織損傷 肘部および前腕部障害の鑑別方法 3
9	軟部組織損傷 肘部および前腕部障害の鑑別方法 4
10	小テストおよび解説、肘部および前腕部の障害の鑑別方法まとめ
11	軟部組織損傷 手関節および手指部障害の鑑別方法 1
12	軟部組織損傷 手関節および手指部障害の鑑別方法 2
13	軟部組織損傷 手関節および手指部障害の鑑別方法 3
14	前期のまとめ 1
15	前期のまとめ 2
16	定期試験および解説
17	軟部組織損傷 股関節の軟部組織損傷の鑑別方法 1
18	軟部組織損傷 股関節の軟部組織損傷の鑑別方法 2
19	軟部組織損傷 股関節の軟部組織損傷の鑑別方法 3
20	軟部組織損傷 大腿部の軟部組織損傷の鑑別方法 4
21	小テストおよび解説、股関節・大腿部の軟部組織損傷の鑑別方法まとめ
22	軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷の鑑別方法 1
23	軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷の鑑別方法 2
24	軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷の鑑別方法 3
25	軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷の鑑別方法 4
26	小テストおよび解説、膝関節部の軟部組織損傷の鑑別方法まとめ
27	軟部組織損傷 下腿部の軟部損傷の鑑別方法 1
28	軟部組織損傷 下腿部の軟部損傷の鑑別方法 2
29	軟部組織損傷 足部の軟部損傷の鑑別方法 1
30	軟部組織損傷 足部の軟部損傷の鑑別方法 2
31	後期のまとめ
32	定期試験および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

整骨院での実習を行う。

2 到達目標

担当教員の実務経験を基にした実習を通し、柔道整復師の仕事内容、患者への対応方法などを学び、柔道整復師としての心構えを身に付けさせる。

3 授業の方法

臨床施設での整骨院業務補助

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

実習先での実技評価表に基づいた採点になります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習先での指導はメモを取り、自主学習にて復習を行うこと。

7 使用教材，教具

特になし。

8 学生へのメッセージ

外部実習として学校外での研修になります。

他の模範となるような姿勢で臨んでください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床実習Ⅱ)

回数	授業内容
1	外部実習 1
2	外部実習 2
3	外部実習 3
4	外部実習 4
5	外部実習 5
6	外部実習 6
7	外部実習 7
8	外部実習 8
9	外部実習 9
10	外部実習 10
11	外部実習 11
12	外部実習 12
13	外部実習 13
14	外部実習 14
15	外部実習 15
16	外部実習 16
17	外部実習 17
18	外部実習 18
19	外部実習 19
20	外部実習 20
21	外部実習 21
22	外部実習 22
23	外部実習 23

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

整骨院での実習を行う。

2 到達目標

担当教員の実務経験を基にした実習を通し、柔道整復師の仕事内容、患者への対応方法などを学び、柔道整復師としての心構えを身に付けさせる。

3 授業の方法

臨床施設での整骨院業務補助

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

実習先での実技評価表に基づいた採点になります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習先での指導はメモを取り、自主学習にて復習を行うこと。

7 使用教材，教具

特になし。

8 学生へのメッセージ

外部実習として学校外での研修になります。

他の模範となるような姿勢で臨んでください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

回数	授業内容
1	外部実習 1
2	外部実習 2
3	外部実習 3
4	外部実習 4
5	外部実習 5
6	外部実習 6
7	外部実習 7
8	外部実習 8
9	外部実習 9
10	外部実習 10
11	外部実習 11
12	外部実習 12
13	外部実習 13
14	外部実習 14
15	外部実習 15
16	外部実習 16
17	外部実習 17
18	外部実習 18
19	外部実習 19
20	外部実習 20
21	外部実習 21
22	外部実習 22
23	外部実習 23

シラバス（授業計画書）

科目名（ 一般臨床医学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 3 年

1 授業の内容

一般臨床医学Ⅱは、臨床において最低限知っておかなければならない大切な科目の1つである。診察概論・各論で患者への身体観察等を中心に学習する。

2 到達目標

- ・診察の意義、診察の方法を理解し、その内容が説明できる。
- ・主な疾患の概要を理解し、その原因や徴候など特徴が説明できる。

3 授業の方法

- ・授業は講義形式で行い、單元ごとに国家試験問題を解き理解を深める。
- ・小テストは單元ごとに年6回実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 70%、小テスト 25%

5 評価の際の特記事項

定期試験は、前期と後期の試験を合計する。小テストの平均点を最終評価に加える。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

- ・授業で配布するプリントを自宅での復習教材として活用する。
- ・国家試験問題プリントで試験の傾向を確認する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学協会編「一般臨床医学」（改訂3版）医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

一般臨床医学の内容は、既学習済みである生理学や解剖学の知識を必要となるため、各科目復習をしながら授業に臨んでもらいたい。また、国家試験においては主要な科目に位置づけられているため教科書のボリュームも多く日頃より計画的に予習や復習に努めて欲しい。

9 教員氏名（ 田中巧 ）

所 属（ はり灸リンパトリートメントサロン 田中家＋ ）

10 特記事項

通常教員による授業

科目名（ 一般臨床医学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	主要な疾患 H 神経疾患②各論
2	主要な疾患 J リウマチ・膠原病・アレルギー、I 感染症（HIV）①
3	主要な疾患 J リウマチ・膠原病・アレルギー、I 感染症（HIV）②
4	診察各論（1）A 医療面接 1 医療面接の意義と方法～、B 視診 4 威容状態
5	診察各論（2）B 視診 5 精神状態～ 8 皮膚の状態
6	診察各論（2）B 視診 9 頭部、顔面の視診～ 1 3 背部、腹部の視診
7	診察各論（2）B 視診 1 4 四肢の視診～ C 打診
8	診察各論（2）D 聴診
9	診察各論（2）E 触診 1 触診の意義と方法～ 4 骨、関節の触診
10	診察各論（2）E 触診 5 胸部の触診～ 7 リンパ節の触診
11	診察各論（2）F 生命徴候 1 体温～ 4 呼吸
12	診察各論（2）G 感覚検査 1 感覚検査の意義と方法～ 5 その他の感覚
13	診察各論（2）H 反射検査 1 反射の種類～ 4 深部反射
14	診察各論（2）H 反射検査 5 病的反射～ 7 自律神経反射
15	まとめ
16	試験の答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1 授業の内容

柔道整復師養成施設指導ガイドラインに定めるところの認定実技審査合格の為の指導

2 到達目標

柔道審査項目合格

3 授業の方法

実技項目、評価 1～5 を順に通し練習

口頭試問の出題項目練習

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

競技目的の柔道を教育するものではなく、機能的特性、構造的特性を育てたく考えているので、実技試験並びに真面目に授業に参加する姿勢を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技練習は危険の為、プリントを配布して柔道の基礎的知識を学んでもらう。

7 使用教材、教具

柔道事故データブック、柔道の安全指導、柔道の授業作り、柔道の形、講道館形、技 DVD 等

8 学生へのメッセージ

柔道の理念（修心、体育、勝負法）を学んでほしい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業

怪我、病気者は道着を着て、見学した際は出席とする。

科目名（ 柔道Ⅳ ）

回数	授業内容
1	卒業認定試験の為の礼法（立礼、座礼）
2	卒業認定試験の為の道着の着こなし方
3	卒業認定試験の為の形（浮落）
4	卒業認定試験の為の形（背負投）
5	卒業認定試験の為の形（肩車）
6	卒業認定試験の為の形（浮腰）
7	卒業認定試験の為の形（払腰）
8	卒業認定試験の為の形（釣込腰）
9	卒業認定試験の為の形（送足払） 口頭試問（柔道について）
10	卒業認定試験の為の形（支釣込腰） 口頭試問（嘉納治五郎師範について）
11	卒業認定試験の為の形（内股） 口頭試問（講道館ルールと国際ルールの違い）
12	卒業認定試験の為の試合 － 始め
13	卒業認定試験の為の試合 － 相手との間合い
14	卒業認定試験の為の試合 － 崩し、残身
15	卒業認定試験の為の試合 － 投げた際の声の出し方 全体のまとめ
16	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

これまでに学習した脱臼の症状、整復法、固定法の復習と運動学をベースとした基本的な人体の構造、機能、関節運動を学び、後療法の運動療法の実践方法を学ぶ。

2 到達目標

脱臼の症状、整復法、固定法を理解する。

人体の基本的構造を理解し、運動療法のプログラムを組立てることができる。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしてくること。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第 6 版）

8 学生へのメッセージ

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	鎖骨の脱臼 P225～
2	肩関節の脱臼 P239～
3	肘関節脱臼 P279～
4	手関節部の脱臼 P318～
5	手根中手関節の脱臼 P332～
6	中手指節関節、指節関節の脱臼 P339～
7	股関節の脱臼 P366～
8	膝関節の脱臼 P397～
9	足根部の脱臼 P449～
10	中足指節関節、指節間関節の脱臼 P452～
11	顎関節の脱臼 P163～
12	頸椎の脱臼 P180～
13	胸椎の脱臼 P205～
14	腰椎の脱臼 P215～
15	前期総復習
16	前期試験返却&解説
17	頸椎の骨折 P171～
18	胸椎の骨折 P200～
19	腰椎の骨折 P212～
20	骨折各論① 体幹 総復習
21	骨折各論② 上肢① 総復習
22	骨折各論③ 上肢② 総復習
23	骨折各論④ 下肢① 総復習
24	骨折各論⑤ 下肢② 総復習
25	脱臼各論① 上肢 総復習
26	脱臼各論② 下肢 総復習
27	骨折各論 上肢 四択問題にて総復習
28	骨折各論 下肢 四択問題にて総復習
29	脱臼各論 上肢 四択問題にて総復習
30	脱臼各論 下肢 四択問題にて総復習
31	後期総復習
32	後期試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅵ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1 授業の内容

柔道整復師として業務に必要な外傷一般に対する実践的な知識を深める基礎学習する。

2 到達目標

柔道整復師として外傷一般に対する診察、治療、鑑別についての基礎的知識を習熟する。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、担当教員の実務経験を基に実務に必要な技術、知識の基礎的要素の習得を促す。国家試験過去問題集も使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業前の教科書熟読、対応する国家試験問題の予習をしてくること。授業後も復習をしてもらう。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復理論（改定第6版）」

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として施術を行うためには、本当に多くの知識が必要であると実感している。教科書はその習得のための基礎的なバイブルであり、国家試験問題はその中でも重要なエッセンスを抽出した重要な臨床の指針と考える。そしてこれらを習得することが臨床力の向上に繋がるという担当教員の実体験も交えて、国家試験にも対応できる授業内容としていく。

9 教員氏名（ 林 慶彰 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院で施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅵ ）

回数	授業内容
1	先天性疾患と後天性疾患の鑑別
2	疾病の素因と体質の鑑別
3	疾病のストレス因子の鑑別
4	組織の萎縮の鑑別
5	充血、うっ血、虚血、出血、浮腫の鑑別
6	肥大、過形成の鑑別
7	滲出性炎の鑑別
8	自己免疫不全の鑑別
9	免疫不全の鑑別
10	腫瘍の局所への影響の鑑別
11	染色体異常の鑑別
12	奇形の鑑別
13	視診を行う際の注意点（体位と姿勢）
14	視診を行う際の注意点（意識状態）
15	打診を行う際の注意点
16	定期試験の返却及び解説
17	生命徴候を診る際の注意点
18	胸部疾患の鑑別方法（気管支喘息、肺気腫）
19	胸部疾患の鑑別方法（心臓弁膜症、先天性心疾患）
20	腹部疾患の鑑別方法（食道炎、消化性潰瘍）
21	四肢所見の鑑別方法（血友病、特発性血小板減少性紫斑病）
22	頭部疾患の鑑別方法（脳梗塞、パーキンソン病）
23	運動の表し方の応用
24	運動器構造知識の応用
25	筋作用知識の応用
26	歩行様態知識の応用
27	運動発達知識の応用
28	疾病予防の段階についての注意点
29	注意すべき院内感染
30	スタンダードプリコーション
31	まとめ
32	定期試験の返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 3 年

1 授業の内容

臨床現場で行われている患者への接し方、所見のとり方、治療の説明、実際の治療の流れなど柔道整復師に必要な不可欠な技術の習得を行い、実践的な知識につける。

2 到達目標

それぞれの項目において、概念、分類、発生機序、症状、合併症、治療法について説明ができ、臨床の場で対処する術を身に付ける。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、担当教員の実務経験を基に実務に必要な技術、知識の基礎的要素の習得を促す。国家試験過去問題集も使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業前の教科書熟読、対応する国家試験問題の予習をしてくること。授業後も復習をしてもらう。

7

使用教材、教具

全国柔道整復学校協会教科書委員会編「柔道整復理論（改定第6版）」

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として施術を行うためには、本当に多くの知識が必要であると実感している。教科書はその習得のための基礎的なバイブルであり、国家試験問題はその中でも重要なエッセンスを抽出した重要な臨床の指針と考える。そしてこれらを習得することが臨床力の向上に繋がるという担当教員の実体験も交えて、国家試験にも対応できる授業内容としていく。

9 教員氏名（ 林 慶彰 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院で施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	自覚症状と他覚的所見の鑑別
2	疾病の遺伝要因の鑑別
3	疾病の外因の鑑別
4	組織の変性の鑑別
5	血栓、塞栓、梗塞の鑑別
6	再生、化生の鑑別
7	繁殖性炎、肉芽腫性炎の鑑別
8	アレルギーの鑑別
9	腫瘍の触診の鑑別
10	腫瘍の全身への影響の鑑別
11	遺伝病の鑑別
12	視診を行う際の注意点（意義と方法）
13	視診を行う際の注意点（栄養状態）
14	視診を行う際の注意点（異常運動）
15	聴診を行う際の注意点
16	定期試験の返却及び解説
17	反射検査、代表的な臨床症状を診る際の注意点
18	胸部疾患の鑑別方法（狭心症、心筋梗塞）
19	腹部疾患の鑑別方法（急性虫垂炎、腹膜炎）
20	腹部疾患の鑑別方法（肝炎、肝硬変）
21	四肢所見の鑑別方法（鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血）
22	四肢所見の鑑別方法（進行性筋ジストロフィー、ALS）
23	運動の基礎力学の応用
24	運動の神経機構知識の応用
25	筋の支配神経知識の応用
26	姿勢態様知識の応用
27	運動学習の応用
28	健康指標の臨床的応用
29	有用な感染症の分類
30	適応となる消毒法の分類
31	まとめ
32	定期試験の返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

脱臼について、総論から各論を全体的に学び、国家試験の受験に向けての学力を身につける。

2 到達目標

認定実技審査や柔道整復師国家試験の受験に必要な知識・技能を深め、臨床の場での確に施術を実践できるような行動力を身につける。

3 授業の方法

柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学などを用いての講義や実践に大切な治療方法などの知識を深め、技能を身につける

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って教科書の予習・復習を行うと良い。技術は忘却しないよう、練習を重ねると良い。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学など

8 学生へのメッセージ

脱臼は認定実技試験や国家試験受験及び臨床の場においてとても重要です。より理解を深め、認定実技試験、国家試験、臨床の場に臨んでいただきたい。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院で施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	胸鎖関節脱臼
3	肩鎖関節脱臼①
4	肩鎖関節脱臼②
5	肩関節脱臼①
6	肩関節脱臼②
7	肩関節脱臼③
8	肘関節脱臼①
9	肘関節脱臼②
10	肘関節脱臼③
11	肘内障①
12	肘内障②
13	予備・復習
14	予備・復習
15	前期試験
16	解説
17	手関節脱臼①
18	手関節脱臼②
19	CM、MP 関節脱臼
20	PIP,DIP 関節脱臼
21	股関節脱臼①
22	股関節脱臼②
23	膝蓋骨脱臼
24	膝関節脱臼
25	足部脱臼
26	足指の脱臼
27	脱臼総論①
28	脱臼総論②
29	脱臼総論③
30	予備・復習
31	後期試験
32	解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1 授業の内容

これまでに習得した柔道整復術を臨床現場に寄せた内容で行う。主に疾患の特定に対する問診と触診術を身につける。

2 到達目標

各疾患に対する触診術の見極めが出来る。

3 授業の方法

スライドを用いた授業を行う。場合によって実技を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布している資料を基に自主練習の復習を行うこと。実技は簡単に身につくものではないので繰り返し練習し定着させる必要がある。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復術は簡単に身につくものではないので、全コマ出席の参加で臨み自主練習に励んで下さい。

8 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅵ ）

回数	授業内容
1	柔道整復術における触診術と問診
2	肩腱板損傷の触診術と問診
3	上腕二頭筋長頭腱損傷の触診術と問診
4	野球肩（リトルリーガー肩を含む）の触診術と問診
5	肩部の触診術と問診
6	上腕部における神経障害の触診術と問診
7	テニス肘の触診術と問診
8	野球肘の触診術と問診
9	前腕部の腱鞘炎に対する触診術と問診
10	腱交叉症候群の触診術と問診
11	手根骨における障害（外傷、壊死、非外傷性を含む）の触診術と問診
12	手指部における退行性変性の触診術と問診
13	上肢の触診術と問診（復習）
14	上肢の触診術と問診を実技練習 1
15	上肢の触診術と問診を実技練習 2
16	試験返却&解説
17	鼠径部痛症候群の触診術と問診
18	小児の股関節疾患における触診術と問診
19	股関節から大腿部における神経障害の触診術と問診
20	大腿四頭筋肉離れの触診術と問診
21	大腿ハムストリングスの触診術と問診
22	膝半月板損傷の触診術と問診
23	膝側副靱帯損傷の触診術と問診
24	膝前十字靱帯損傷の触診術と問診
25	股関節から大腿部における触診術と問診
26	下腿部から足部における神経障害の触診術と問診
27	下腿肉離れの触診術と問診
28	足関節捻挫の触診術と問診
29	下肢の触診術と問診（復習）
30	下肢の触診術と問診を実技練習 1
31	下肢の触診術と問診を実技練習 2
32	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 3 年

1 授業の内容

臨床現場においてより素早くより正確に疾患を発見できる能力を身に付けるために、さらなる知識や技能の習得をはかる。

2 到達目標

人体解剖学に基づく名称や触診部位の説明ができるようになる。また人体構造とその機能に関する知識の習得をはかる。

3 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材、教具

社団法人全国柔道整復学校協会監修：柔道整復学 理論編 改訂第6版

8 学生へのメッセージ

一度学んでいる分野だとは思いますが、国家試験、また卒後の臨床にも使える為にも、より深い理解が出来るよう取り組んでください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	骨折の分類 P24～
2	骨折の症状 P31～
3	骨折の合併症 P35～
4	小児骨折、高齢者 P40～
5	骨折の癒合日数 P43～
6	骨折の治癒経過 P44～
7	骨折の予後 P46
8	骨折の治癒に影響を与える因子 P47
9	鎖骨骨折 P221～
10	肩甲骨骨折 P228～
11	上腕骨近位部の骨折 P233～
12	上腕骨骨幹部の骨折 P256～
13	上腕骨遠位部の骨折 P266～
14	前腕骨近位部の骨折 P274～
15	前腕骨骨幹部の骨折 P288～
16	試験返却および解説
17	前腕骨遠位端部の骨折 P313～
18	手根骨部の骨折 P313～
19	中手骨部の骨折 P328～
20	指骨の骨折 P334～
21	骨盤骨骨折 P351～
22	大腿骨近位部の骨折 P356～
23	大腿骨骨幹部の骨折 P377～
24	大腿骨遠位端部の骨折 P388～
25	下腿近位端部の骨折 P392～
26	下腿骨幹部の骨折 P411～
27	下腿遠位部の骨折 P426～ 足根骨骨折 距骨骨折，踵骨骨折② P432～P436
28	足根骨の骨折（距骨・踵骨） P442～
29	足根骨の骨折 P444～
30	中足骨の骨折・趾骨の骨折 P447～
31	総復習
32	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1 授業の内容

柔道整復術の適応を様々な角度から診ることで適応疾患と適応外疾患の対応を学ぶ。

2 到達目標

柔道整復術の適応疾患と適応外疾患を見極めるようになる。また、適応外の対応が出来るようになる。

3 授業の方法

スライドを用いて講義形式で行う。授業時に配布する資料を参考に使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布している資料や授業で学んだことを参考に自主練習の復習を行うこと。
対応は簡単に身につくものではないので繰り返し練習し定着させる必要がある。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復術の適応は簡単に身につくものではないので、全コマ出席の参加で臨み自主練習に励んで下さい。

8 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否を考える
2	損傷に類似した症状を示す疾患
3	血流障害を伴う損傷
4	末梢神経損傷を伴う損傷
5	脱臼骨折
6	外出血を伴う損傷 骨折
7	外出血を伴う損傷 脱臼
8	病的骨折および脱臼
9	意識障害を伴う損傷
10	脊髄症状のある損傷呼吸運動障害を伴う損傷
11	内臓損傷の合併が疑われる損傷
12	高エネルギー外傷 骨折
13	高エネルギー外傷 脱臼
14	柔道整復術範囲外の対応
15	授業のまとめと復習
16	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 3 年

1 授業の内容

これまでに習得した柔道整復術を臨床現場に寄せた内容で行う。主に鑑別疾患との比較から柔道整復術（治療法、運動療法）の対応を身につける。

2 到達目標

各疾患に対する類似疾患を見極め柔道整復術（治療法、運動療法）が出来る。

3 授業の方法

スライドを用いた授業を行う。場合によって実技を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布している資料を基に自主練習の復習を行うこと。実技は簡単に身につくものではないので繰り返し練習し定着させる必要がある。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復術は簡単に身につくものではないので、全コマ出席の参加で臨み自主練習に励んで下さい。

8 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	テスト法と柔道整復術
2	肩腱板損傷と鑑別疾患
3	上腕二頭筋長頭腱損傷と鑑別疾患
4	肩部の診察とテスト法
5	上腕骨外側上顆炎と鑑別疾患
6	野球肘と後療法について
7	前腕コンパートメント症候群の鑑別疾患と対応法
8	前腕伸筋群腱鞘炎と鑑別疾患
9	前腕屈筋群腱鞘炎と鑑別疾患
10	前腕部の診察と治療法
11	ド・ケルバン病の診察とリハビリプログラム
12	TFCC 損傷の診察とリハビリプログラム
13	ばね指の診察と鑑別疾患、治療法
14	指損傷の診察と鑑別疾患、後療法
15	上肢の診察とテスト法
16	試験返却&解説
17	鼠径部痛症候群の診察と鑑別疾患
18	大腿骨頭壊死と鑑別疾患
19	大腿部肉離れの治療法とリハビリプログラム
20	半月板損傷の診察と治療法
21	十字靱帯損傷の診察とリハビリプログラム
22	膝蓋大腿関節における鑑別疾患
23	ジャンパー膝とランナー膝の治療法、リハビリプログラム
24	膝部の診察とテスト法
25	膝部の治療法とリハビリプログラム
26	下腿肉離れの治療法とリハビリプログラム
27	下腿コンパートメント症候群の診察と鑑別疾患
28	足関節における鑑別疾患
29	足部における鑑別疾患
30	足関節から足部の診察とリハビリプログラム
31	下肢の診察とテスト法
32	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 3 年

1. 授業の内容

臨床現場においてより素早くより正確に疾患を発見できる能力を身に付けるために症例を基に、人体構造や人体の仕組みについて解剖学や生理学を含めた学習を行う。

2. 到達目標

人体解剖学に基づく名称や触診部位の説明ができるようになる。また人体構造とその機能に関する知識の習得をはかる。

3. 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4. 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5. 評価の際の特記事項

特になし。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7. 使用教材

社団法人全国柔道整復学校協会監修：解剖学 改訂第2版，配布プリント

8. 学生へのメッセージ

一度学んでいる分野だとは思いますが、国家試験、また卒後の臨床にも使える為にも、より深い理解が出来るよう取り組んでください。

9. 教員名 （ 梅崎 航 ）

所属 （ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10. 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨の形態と機能①体幹
3	骨の形態と機能②上肢
4	骨の形態と機能③下肢
5	筋の構造と機能①体幹
6	筋の構造と機能②上肢
7	筋の構造と機能③下肢
8	血管の構造と機能①頭部・体幹
9	血管の構造と機能②上肢
10	血管の構造と機能③下肢
11	神経の構造と機能①頭部・体幹
12	神経の構造と機能②上肢
13	神経の構造と機能③下肢
14	痛みの種類とメカニズム
15	前期まとめ
16	答案返却及びその解説授業
17	上肢骨折での触診部位・神経疾患①肩部～肘部
18	上肢骨折での触診部位・神経疾患②前腕部～指部
19	上肢脱臼での触診部位・神経疾患①肩関節・肘関節
20	上肢脱臼での触診部位・神経疾患②手関節・指関節
21	上肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患①肩部～肘部
22	上肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患②前腕部～指部
23	下肢骨折での触診部位・神経疾患①骨盤部～膝部
24	下肢骨折での触診部位・神経疾患②下腿部～趾部
25	下肢脱臼での触診部位・神経疾患①股関節・膝関節
26	下肢脱臼での触診部位・神経疾患②足関節・趾関節
27	下肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患①骨盤部～膝部
28	下肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患②下腿部～趾部
29	頭部・顔面部損傷での触診部位・神経疾患①第Ⅻ脳神経の機能
30	頭部・顔面部損傷での触診部位・神経疾患②第Ⅻ脳神経の圧痛点
31	後期まとめ
32	答案返却及びその解説授業

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 3年

1 授業の内容

主に認定実技審査内容の診察・整復、固定の内容について理解を深めるため、実技形式で行う。

2 到達目標

主に認定実技審査の内容に対して理解を深め、技能を高め、国家試験合格に必要な知識を得る。

3 授業の方法

実技編・理論編の教科書を用い、知識を習得し、実践において技術の向上を図る。模擬的に技能の習得の確認なども行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習・復習は非常に大切で、特に技能向上のためには繰り返しの自主的な練習は必要不可欠である。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学など

8 学生へのメッセージ

認定実技審査への合格、国家試験の合格のためには、多くの知識・技能が必要です。より高い技術力を得られるように修練し、深い知識が得られるように学習しましょう。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院で施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	足関節テーピング（スターアップ）
3	足関節テーピング（ホースシュー）
4	足関節テーピング（フィギアエイト）
5	足関節テーピング（ヒールロック）
6	膝関節テーピング（X サポート）①
7	膝関節テーピング（X サポート）②
8	膝関節側副靱帯損傷（診察・検査）①
9	膝関節側副靱帯損傷（診察・検査）②
10	膝関節十字靱帯損傷（診察・検査）①
11	膝関節十字靱帯損傷（診察・検査）②
12	膝関節半月損傷（診察・検査）①
13	膝関節半月損傷（診察・検査）②
14	予備・復習
15	試験
16	解説
17	肩鎖関節上方脱臼（診察・整復）
18	肩関節前方脱臼（診察・整復）
19	肘関節後方脱臼（診察・整復）
20	肘内障（診察・整復）
21	認定実技練習①
22	認定実技練習②
23	認定実技練習③
24	必修問題対策①
25	必修問題対策②
26	必修問題対策③
27	必修問題対策④
28	必修問題対策⑤
29	必修問題対策⑥
30	必修問題対策⑦
31	試験
32	解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 3 年

1 授業の内容

これまでに習得した柔道整復術の整復、固定を患者と施術者に分かれて実技を繰り返し行う。

2 到達目標

骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する柔道整復術の整復および固定を早く、丁寧に行うことができるようになる。

3 授業の方法

固定材料（軟性、硬性）を用い整復と固定を授業毎にテーマを決めて行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布している資料を基に自主練習の復習を行うこと。実技は簡単に身につくものではないので繰り返し練習し定着させる必要がある。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復術は簡単に身につくものではないので、全コマ出席の参加で臨み自主練習に励んで下さい。

8 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折整復
2	上腕骨外科頸骨折整復
3	コーレス骨折整復
4	肩鎖関節上方脱臼整復
5	肩関節前方烏口下脱臼整復
6	肘関節後方脱臼整復
7	肘内障整復
8	肩腱板損傷診察
9	上腕二頭筋長頭腱損傷診察
10	ハムストリングス損傷、下腿三頭筋損傷診察
11	大腿四頭筋打撲診察
12	膝関節側副靱帯損傷診察
13	膝関節十字靱帯損傷診察
14	膝関節半月板損傷診察
15	足関節外側靱帯損傷診察
16	試験返却&解説
17	骨折整復全般 1
18	脱臼整復全般 1
19	軟部組織損傷診察全般 1
20	骨折整復全般 2
21	脱臼整復全般 2
22	軟部組織損傷診察全般 2
23	本番形式での実技練習 1
24	本番形式での実技練習 2
25	本番形式での実技練習 3
26	本番形式での実技練習 4
27	本番形式での実技練習 5
28	本番形式での実技練習 6
29	本番形式での実技練習 7
30	本番形式での実技練習 8
31	本番形式での実技練習 9
32	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

学科名 柔道整復科 科

学年 3 年

1 授業の内容

主に全身の脱臼の内容を扱う。認定実技審査や国家試験、資格取得後の施術方法について、理解を深め、技能を高める。

2 到達目標

脱臼という関節構成組織損傷のおける、診察・施術（整復・固定・後療法）、注意点などについて理解を深め、認定実技審査、国家試験に臨める知識・技能を身につける。

3 授業の方法

脱臼について、患者の来院から診察・徒手検査、整復、固定、後療法などの一連の流れを実技形式で実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する。併せて、認定実技審査の合格が必須となる。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

技能を身につけるためには時間を要します、自主学習、練習繰り返すことが大切です。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学

8 学生へのメッセージ

認定実技審査は国家試験を受験するためには重要な試験です。しっかりと自主練習を行いましょう。また、国家試験対策として、しっかり理解を深めましょう。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院で施術者として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	肩鎖関節上方脱臼（診察）
3	肩鎖関節上方脱臼（整復）
4	肩鎖関節上方脱臼（固定）
5	肩関節前方脱臼（診察）
6	肩関節前方脱臼（整復）
7	肩関節前方脱臼（固定）
8	肘関節後方脱臼（診察）
9	肘関節後方脱臼（整復）
10	肘関節後方脱臼（固定）
11	肘内障（診察）
12	肘内障（整復）
13	肘内障（固定）
14	予備・復習
15	前期試験
16	解説
17	PIP 関節背側脱臼
18	第 1MP 関節背側脱臼
19	股関節後方脱臼
20	膝蓋骨側方脱臼
21	足趾の脱臼
22	顎関節脱臼
23	肩鎖関節脱臼復習①
24	肩鎖関節脱臼復習②
25	肩関節脱臼復習①
26	肩関節脱臼復習②
27	肘関節後方脱臼復習①
28	肘関節後方脱臼復習②
29	肘内障復習①
30	肘内障復習②
31	後期試験
32	解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

主に認定実技審査内容の診察・整復・固定の内容について、知識や技能を深めるため実技形式で行う。

2 到達目標

主に認定実技審査の内容に対して知識や技能を深め、国家試験合格に必要な知識を習得する。

3 授業の方法

実技編・理論編の教科書を用い、知識を習得し、実践において技術の向上を図る。
模擬的に技能の習得の確認なども行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特に無し。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習・復習は非常に大切で、特に技能向上のためには繰り返しの自主的な練習は必要不可欠である。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂
全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

認定実技審査への合格、国家試験の合格に向けて、知識・技能の向上に努めましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折整復法①
2	鎖骨骨折整復法②
3	コーレス骨折整復法①
4	コーレス骨折整復法②
5	肩腱板損傷診察法①
6	肩腱板損傷診察法②
7	上腕骨外科頸骨折整復法①
8	上腕骨外科頸骨折整復法②
9	上腕二頭筋長頭腱損傷診察法①
10	上腕二頭筋長頭腱損傷診察法②
11	ハムストリングス損傷診察法①
12	ハムストリングス損傷診察法②
13	大腿四頭筋打撲診察診察法①
14	大腿四頭筋打撲診察診察法②
15	総復習
16	試験返却および解説
17	下腿三頭筋損傷診察法①
18	下腿三頭筋損傷診察法②
19	足関節外側靱帯損傷診察法①
20	足関節外側靱帯損傷診察法②
21	足関節外側靱帯損傷固定法①（局所副子固定）
22	足関節外側靱帯損傷固定法②（局所副子固定）
23	本番形式での実技練習 1
24	本番形式での実技練習 2
25	本番形式での実技練習 3
26	本番形式での実技練習 4
27	本番形式での実技練習 5
28	本番形式での実技練習 6
29	本番形式での実技練習 7
30	本番形式での実技練習 8
31	総復習
32	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

柔道整復師として必要な整復固定の知識、技能を学習する。

2 到達目標

臨床に必要な知識・技能を身につける。

3 授業の方法

教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

質問への返答、課題に対する理解度。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

7 使用教材，教具

社団法人全国柔道整復師協会 柔道整復学・理論編（改定第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

整復固定は柔道整復師の業務を行うにあたりとても大事な所なので、しっかり勉強して下さい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（柔道整復実技Ⅸ）

回数	授業内容
1	鎖骨定型的骨折（触診・鑑別・整復・固定）
2	上腕骨外科頸骨折（触診・鑑別・整復・固定）
3	コーレス骨折（触診・鑑別・整復・固定）
4	肩鎖関節上方脱臼（触診・鑑別・整復・固定）
5	肩関節前方脱臼（触診・鑑別・整復・固定）
6	肘関節後方脱臼（触診・鑑別・整復・固定）
7	肘内障（触診・鑑別・整復・固定）
8	肩腱板損傷（触診・鑑別・固定）
9	上腕二頭筋長頭腱損傷（触診・鑑別・固定）
10	ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲（触診・鑑別・固定）
11	膝関節側副靱帯損傷（触診・鑑別・固定）
12	膝関節十字靱帯損傷（触診・鑑別・固定）
13	膝関節半月板損傷（触診・鑑別・固定）
14	下腿三頭筋損傷（触診・鑑別・固定）
15	足関節外側靱帯損傷（触診・鑑別・固定）
16	後期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3 年

1 授業の内容

実技も交えながら、臨床に必要な骨折の整復法、固定法を学ぶ。

2 到達目標

骨折に対する整復および固定を臨床現場でも素早く丁寧に行える技術を身につける。

3 授業の方法

ホワイトボードによる講義と実技。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

社団法人全国柔道整復学校協会監修：柔道整復学 実技編（改訂第2版）

8 学生へのメッセージ

臨床に必要な骨折の整復法、固定法を学び、国家試験に向けて必要な知識や技能を身につけていきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折の診察・整復法・固定法 P62～
2	鎖骨骨折の固定法 P69～
3	コーレス骨折の整復法 P152～ 上腕骨骨幹部骨折の整復法・固定法 P97～
4	コーレス骨折の固定法 P157～
5	上腕骨外科頸外転型骨折の診察法 P75～
6	上腕骨外科頸外転型骨折の整復法 P78～
7	中手骨頸部骨折の固定法 P182～
8	下腿骨骨幹部骨折の固定法 P310～
9	肋骨骨折の固定法 P418～
10	上腕骨顆上骨折の診察・整復法 P106～
11	上腕骨外顆骨折の診察・整復法 P122～
12	上腕骨内側上顆骨折の診察・整復法 P128～
13	肘頭骨折の診察・整復法 P137～
14	モンテギア骨折の診察・整復法 P142～
15	橈・尺両骨骨幹部骨折の診察・整復・固定法 P147～
16	スミス骨折の診察・整復・固定法 P164～
17	舟状骨骨折の診察・整復法・固定法 P169～
18	ベネット骨折の診察・整復法・固定法 P172～
19	基節骨骨折の診察・整復法・固定法 P198～
20	中節骨骨折の診察・整復法・固定法 P205～
21	大腿骨頸部骨折の診察・整復法・固定法 P290～
22	果部骨折の診察・整復法・固定法 P314～
23	中足骨骨折の診察・整復法・固定法 P328～